

あなたの意識です

第一巻

一、会員番号1610さんの意識

はい、*****さん、あなたの心を語つてみてください。

あなたは、この学びしかないと思つておられるようですが、さて、どうでしようか。

はい、この学びしかないと私は思つてやつてきたつもりです。

しかし、私の中に他力のエネルギーがしつかりと詰まつていることを、心に感じています。肉の私は、他力の反省が進んでいないことを、まだ感じております。

ああ、これがすべてでございました。母を思う時、田池留吉を思う時、他力のエネルギーが、その私の前に立ち塞がる壁としてあります。しつかりとあります。

ああ、肉はこの学びしかないと思つています。それは事実です。しかし、他力の壁はあまりにも部厚い。私の前に立ち塞がつているのを感じます。

はい、*****さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

私は、田池留吉など信じていない。信じるものか。

なぜ田池留吉なんだ。なぜあいつなんだ。私の目の前に立ち塞がつたあいつを見るのがとても苦しい。散々私は、この心を使ってまいりました。

どうして田池留吉、なぜあの男なんだ。なぜなんだ、なぜなんだ。

そんな思いが心の中から出でてきます。

これが私の他力のエネルギーなのでしょうか。私は、自分でまだよく分かつておりません。瞑想を続けてみます。田池留吉に心を向ける瞑想を、真剣にやつていきます。

母に向かって、叫び出したい思いを、抑えてまいりました。

異語。

*****さん、どうぞ、ゼロ歳の時のあなたに心を戻していくください。頭ではないのです。母親の反省、母を思う瞑想、そう、あなたはそれを頭で理解されようとしています。

ああ、でも今、あなたのほうに意識を向ける時、あなたが語っていたように、他力のエネルギーがしつかりと中に詰まっているのを感じます。

どうぞ、しつかりとそのエネルギーを自分の中で確認していってください。

時間がかかります。焦らずともいいんです。ゆっくりと、あなたの今の日常生活の中で、どんなあなたでも受け入れていけるように、ゆっくりと、ゆっくりと、そのあなたに心を向けていってください。

二、会員番号1090さんの意識

＊＊＊＊さん、あなたの思いを語つてみてください。

私は、＊＊＊＊です。長く、長く学ばせていただきました。田池留吉との出会いから、長い時間を経てきました。

心に真実を求めてきたけれども、私の求めているところは違っていたことを、ようやく最近気付きかけております。

私は、自分の中に大きいなるパワーを求めてきた者でござります。

すべてはパワー、パワーは私の源、私はそのように思つてまいりました。

ああでも、田池留吉が言うパワーとは、全く違っていたことを感じきました。心から田池留吉を呼ぶことができないと、今、感じています。

この学びは、真実の方向を私達に示してくれていると、私は思っていますが、しかし、私の中にも、まだまだ他力のエネルギーがしっかりと残っています。

そのエネルギーが、まだまだ田池留吉に、心の針をピッタリと合わせていくことが、難しいと言つてきます。私の今でござります。

田池留吉、お母さん…、温もりの世界へ帰つてまいりますと、私は、心に誓つて生まれてきた、そのことを感じます。今、このように思いを向けさせていただく時、私の中に、そのような思いを感じます。

間違つてまいました。間違つてきました。

異語。

* * * * *さん、お母さんの温もりを、心に感じてきましたか。どうぞ、お母さんを思う瞑想、淡々と続けて、いつてください。

お母さんです。お母さんの温もりです。それを忘れ去った心の中で、どんなにパワーを求め、

真実の方向に心を向けようとしても、心の針は、そちらのほうにはピッタリと合いません。

田池留吉、お母さん、お母さんの温もり。そう、ゼロ歳のあなたを思う瞑想、淡々と続けていつてください。

三、会員番号1018さんの意識

はい＊＊＊＊さん、自己供養ができないとのこと、あなたは、なぜだと思いますか。あなたの思いを聞かせてください。

＊＊＊＊と言います。ああ、私は、自分の中をしつかりと見ていません。自分の中の醜い思い、汚い思い、隠しておきたい思い、私は、そこに、まだまだ自分で触れることを恐れています。心の中を見て、いけば、ドロドロとした欲の思いが渦巻いているを感じます。

ああ、私は、まだまだそのところに足を踏み入れる勇気が持てない、そんな私を感じます。なぜなんだろうか。

自己供養という言葉に惹かれました。でも、私自身、自分というものを知らない。本当に

どれだけの思いでこの肉体を持ってきたのかという、その思いを、まだ私自身、はつきりと感じていません。

ただ、自分の中は狂っている、狂ってきたに違いない、そう思うだけです。ただただそう思うだけです。まだ、自分から、その狂ってきた自分、間違ってきた自分を、しっかりと受け止めてやれるだけの思いを、私は、まだ自分の中に芽生えさせていません。

はい、私は、自分が恐ろしいのです。自分の中をどんどん見ていけば、私は、間違いなく狂ってしまうであろうと思います。

どれだけのエネルギーを蓄えてきたか、私は、そのことを本当は知っているのに、知らないうふりをしている、そんな自分だと思っています。

異語。

*****さん、お母さんのほうに思いを向けてみてください。

異語。

私は、母を殺してきました。母を憎んできました。母を、母を殺して、殺して、殺してきた。そんな私がなぜ、このように母に願い出て肉体をいただいたのか。その私の思いをまだ心で感じることはできない。

母を許せなかつた。母を許せなかつた。母に対する思い、恨みの思いが、私の中にしつかりとあります。母を認めたくない。母を受け入れられない。母の温もりを蹴散らしてまいりました。

異語。

* * * *さん、あなたがあなたを受け入れていくことができないのは、母親の温もりをあなたの心に感じていないからです。

どうぞ、お母さんを思う瞑想をしていくください。どんな自分でも受け入れていけるだけの温かい広い思いが、あなた自身です。その思いがあなたの中にしつかりとあります。

お母さんの温もりを思い出していきましょう。

お母さんの温もりはあなた自身です。その温もりをあなたの中で、しつかりと感じていかない限り、あなたは、自分のエネルギーに飲み込まれていくことを、あなた自身は、知つてい

るんです。だから、あなたは、あなたを見ないように、見ないようにしています。

こんな思いを使つてきた、あんな思いを広げてきた、そこで留まつてしまふのです。もう一步、もう一步、奥を覗いてみてください。

それには、そうですね。同じことの繰り返しかもしれませんが、お母さんに使つてきた思いを、正直にありのままに、自分の中で確認していくこと、良いとか悪いとか、そういうことではなく、あなたがお母さんに向けてきたエネルギーを、しつかりと確認していくことです。

四、会員番号1439さんの意識

*****さん、今のあなたを語つてみてください。

私は、*****と言います。今の私は、自分自身を嫌つています。自分自身が嫌いなんです。私は、私を認められない。こんな私は認められない、その思いが、とても強いです。

心の中に、自分の理想とする形がありました。その理想を追い求めてきた私があります。過去からの思いがそうです。私は、自分の中に理想を追いかけきました。

異語。

何度も転生をしても、私は、自分を受け入れることはできませんでした。

自分を嫌つてきました。自分が愛しいなんて思えることはなかつた。どうすれば、自分を愛しいと思えるのか、私には、それが分かりません。

自分を大切にするといつても、私は、たぶん自己中心的な思いで、その言葉をどちらえていると思います。

自分を嫌つてている…、私は、今、自分を語つてみて、そんなはずはない、私は、私をこれだけ認めているじゃないか、私にもいいところがある、私にだつてこんな素晴らしいところがある、心の中から反発の思いが出てきます。

ああでも、私は、自分で受け入れられない、自分を認められない、自分を自分が嫌つてきた、この思いを今語つた時、少し、ああそりだつたんだなあつて感じます。私は、私を知らなかつた。知らな過ぎました。

私の中のたくさんの私が、今、このように答えてくれていていることを、心に感じます。

異語。

*****さん、あなたが瞑想をする時の思いを見ていつてください。

なぜあなたは、瞑想をしようと思うのですか。そのところを、正直にあなた自身、確認していつてください。そこに、これからあなたが学んでいく上で、色々なヒントがあると思います。一言で言うならば、欲なんです。あなたが、瞑想をしようとするその根底にあるものは、欲の思いです。その欲の思いをどんどん見ていつてください。こうなりたい、あなりたい、その思いを、どんどん自分の中で見ていくんです。

瞑想することが、もう喜びのはずです。瞑想をする先に何もありません。

異語。

*****さん、そして、淡淡と瞑想を重ねていけば、あなたは、あなたを生んでくださった今世のお母さんを通して、あなたの内で、母という意識に対して、凄まじい思いを流してきましたあなた自身に出会うでしょう。

母親の反省とは、今のあなたのお母さん、単にその人の反省をすることではあります

せん。その人の肉を通して、あなたの中の凄まじいエネルギーを確認していくこと、それが母親の反省です。

過去より、母の意識に対して、どれだけ凄まじいエネルギーを流し続けてきたか、今のお母さんを通して、どんどん自分の中で見ていくください。

五、会員番号11159さんの意識

* * * * *さん、あなたの頭の中の思いとは、どのような思いでしようか。そして、本当の自分の思いとは、どのような思いでしようか。
どうぞ、あなた自身で語つてみてください。

頭では、私はこの学びをやつていこう、そのように思っています。忙しい毎日を送っています。でも、私は、時間を見つけて瞑想をやつています。田池留吉に心を合わせることも、忙しい毎日の中で、やつていこうと思っています。私は、自分の頭では、そのように思っています。
ああ、違っていました。私の中にあるのは、恐怖です。

このまま心を向けていけば、私の中はどうなっていくんだろうか、そんな恐怖の思いが、心の中に渦巻いているのを感じます。

なぜ、恐怖するのか。ああ、私は、今の自分の生活を崩したくないんです。私は、今、色々なことがあります、やはり、肉でとても幸せです。

心の中には、ざわめきも、色々な悩みも、次から次へと感じるけれども、私は、今の生活に満足しています。

この生活と引き換えに、たとえば、私の中が狂つていった時、そうすることが本当にできるのだろうか、それが、恐怖の思いをかきたてるような気がします。

本当の私の思いは、もつともつと、自分の中を、洗いざらい見ていくたい、凄まじいエネルギーを感じて、凄まじいエネルギーをもつと、もつと自由に解き放したい、そのように語つてきます。

ああでも、このエネルギーを受け止めていけるだけの私の中が整つていないことも、また感じるんです。

それが恐怖となつて、私の中に渦巻いているのを感じます。

異語。

＊＊＊＊さん、お母さんを思つてください。あなたも安らいでいた時があつたはずです。何も考えずに、何も思わず、ただただお母さんを思つていた時があつたはずです。

忙しい毎日の中で、ふうつと心を向けることをしていると、あなたはおつしやつていましたが、少し意識的に、瞑想をする時間を持つようになさつてください。

少し長い時間、瞑想をするように心掛けてください。毎日の生活の中で、その時間をどこかで作つて、そして、心をお母さんに向け、田池留吉を思う瞑想をなさつてください。

異語。

私は、＊＊＊＊の意識でござります。お母さん、ごめんなさい。お母さん、ごめんなさい。はい、もう少し、私は、私を見つめてまいります。私は、私を大切にしていきます。私は、私自身のために、あなたから肉体をいただきました。そのことを、もう少し、自分の中で、しつかりと広げていきたいと、今、思います。

六、会員番号1543さんの意識

*****さん、あなたの今の思いを語つてみてください。

自分の中に、本当のことを知りたい思いがありました。本当のことって、いつたい何だろうか、私は、そのように自分で思っていました。

自分の中を見ること、心を見ること、自分を感じること、そういうことを、私はこの肉を通して伝えていただきました。

それが、私の今世でございました。私は、今、自分の中に、真っ黒な、真っ黒な自分を感じ、もう吐き出してもいいんだよ、吐き出してもいいんだよ、みんな苦しかったね、そんな思いを感じています。

そして、その場を、私自身がこのように用意してきたんだなあと感じています。ああでも、私の中は…。

*****さん、田池留吉を思つてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、私は、どこかでこの思いを知っているなあと、今、感じています。お母さんを思います。心の中に母を思う時、私の中に、エネルギーを、大きな、大きなエネルギーを感じます。

そう、田池留吉に心を向けることを、私は、自分で望んできたんだなあと、今、思っています。ひとつのお肉を持つて、そのお肉を通して、凄まじいエネルギーを、今、心に感じています。

田池留吉……。はい、間違った道を歩いてまいりました。田池留吉、私は、間違った道を歩いてまいりました。他力のエネルギーを心に蓄えてきた。ああ、幸せになりたかったからです。幸せになりたかったから、だから、他力の思いを心に蓄えてきた。他力の神々を求めてきましたことを感じます。

間違つてきました。今、私は、そのように感じます。

異語。

* * * * *さん、どうぞ、心を見ることを淡々として、そして、瞑想を淡々と続けていくつ

ください。あなたが心に感じているように、今世、あなたが、自分で用意してきた時間と空間、どうぞ、大切にして、いつてください。

もちろん、一足飛びには進んでいかないと思います。しかし、今、田池留吉に向けた時に感じたあなた自身を、しっかりと、心に受け止めて、田池留吉のほうに心を向けながら、真っ黒な自分を見て、いつてください。

七、会員番号1815さんの意識

* * * *さん、どうぞ、あなたの思いを語つてみてください。

この学びに繋がったことを喜んでいます。私は、自分を道徳という枠の中に押し込めて生きてきました。とても苦しい、小さな中に自分を押し込んで生きてきました。心を縛ることをしてきました。

この学びは反対でした。自分を解き放していくことを伝えていただいています。自分を解き放して、そして、自由な自分を心で感じ知っていくことを、伝えていただけています。

私は、自分の中を、もつともつと解き放していきたいです。道徳に縛られた心を解き放したい。今、私は、自分の肉を通して、このように語らせていただいていることが、すでに幸せだつた、今、そのように感じます。

＊＊＊＊さん、あなたの母さんを思つてみてください。

異語。

はい、母を思う時、私の中には、ああ、母に対しての恨み辛みの思いが、しつかりと感じられます。それが私のエネルギーでした。

私は、恨み辛みをたくさん抱えて、そのエネルギーをたくさん抱えて、転生を続けてきました。何もかも恨んできました。何もかも憎んできました。そんな私が、今の母親を通して、そのエネルギーと向かい合っています。母を恨んできました。母を蹴散らしてきた。母のことを、どうしても、母を受け入れることができなくて、苦しんできました。

そうだつたんですね。私は、私を見ていけばよかつたんですね。

私のこのエネルギーを肉の母を通して、感じていけばよかつたんですね。

今、少し心が軽くなりました。

異語。

* * * * *さん、どうぞ、あなたの中に思いを向け、瞑想を続けていいつてください。田池留吉、まだまだその方向に心を向けるということは、あなたにとつては、難しいかもしませんが、何の欲もなく、ただ無心にお母さんのおっぱいを吸っていた時の思いを思い出しながら、日々、瞑想を重ねていつてください。立派なあなたはいいんです。立派なあなたを目指さなくともいいんです。ありのままのあなたを見ていけば、やがてそこから、本当の喜び、本当の幸せ、本当の温もり、そんなあなたを知っていくでしょう。焦らず、たゆまず、自分に誠実に、これらの時を過ごしていいつてください。

八、会員番号1057さんの意識

* * * * *さん、あなたの学びの動機は何でしょうか。そのところからあなた自身を語つて

みてください。

私は、自分の中が苦しいことを見るのが嫌なんです。自分の中の凄まじいエネルギーと真向かいになるのを拒否しています。そんな私に、自分のエネルギーを感じていきなさい、肉の母を通して、その形を通して、私に訴えかけてくれる意識があります。

そういうことを私は学んでいるのに、私は、やはり、自分の心をしつかりと見ることを拒否しています。では、なぜ、私は、この学びに集っているのか。この学びをしようとしているのか。なぜこの申し込みをしたのか。今、私は、自分で振り返ってみます。

ああ、そうです。私は自分の心を見ずに、何か教えを請うというか、何かこれから私の役立つような、プラスになるような、私が楽になるような、そんなきつかけになればいいと、この申し込みをさせていただいた。

ということは、私は、やはり、他力でどちらえています。過去からの私の他力信仰の思いを引きずり、今もまたこの学びをやつていいこうとしているんですね。

自分の苦しい心を自分で見つめて、そして、それを自由に解き放していきなさい、その方法はこうですよ、そういう学びでした。私は、やはり、動機が間違つておりました。

異語。

* * * * *さん、あなたのお母さんに思いを向けてみてください。お母さんの思いを感じてみましょう。

異語。

はい、肉の母親とは違う何かを感じます。肉の母親も、何も分からずに真つ暗な中にいるんですね。そう、母親も何も分からない。だから、ただ、自分の中の思いのままに、言つたりしたりしてきます。

私は、それをまともに受けていました。

異語。

* * * * *さん、お母さんに厳しく当たる自分自身が悲しいって、どういうことでしょうか。
もつと自分の心を見ていくください。

自分の中の凄まじいエネルギーをお母さんにぶつけるのではなくて、自分で確認していくのです。

瞑想をする中で、どんどん思いを吐き出していつてください。異語が飛び出でくると思います。凄まじいエネルギーを異語で吐き出し、そして、その思いを自分で見つめていつてください。

お母さんに厳しく当たつて悲しい、そういうことで、自分を誤魔化さないでください。あなたの中は、自分のエネルギーの凄まじさを、もつともつと、見つめて、出してくれ、そのように語っているのではないでしようか。お母さんは、単にそのお手伝いをしてくださっている、初めは頭でもいいです。そのように思いながら、どうぞ、瞑想を続けていつてください。

お母さんの介護、あなたの身体にも疲労がたまります。

身体がクタクタになつて、瞑想どころではない、そういう状態であるならば、一度、その状態を考え直してみてください。

お母さんの肉のお世話が第一でしようか。それとも、そのお世話を通し、あなた自身のエネルギーを見つめていくという思いが先行していますか。

形で見れば、同じように介護の時間を割いていても、あなた自身の思いが変わってくれば、介護を通して、どんどんあなたの中に気付きがあると思います。

お母さんの肉のお世話は大切です。しかし、それは、あなたの中のエネルギーを見つめるということを第一にして、されるべきものなのではないでしょうか。

お母さんの肉は肉です。肉は愚かです。あなたの肉も愚かです。

その愚かな肉同士、そこに関わっていては、どこまでいっても苦しみだけです。あなたはこの学びに繋がったのです。まずあなたから、苦しい意識の世界を、しっかりと見つめる方向に今の状態を活かしていつてください。

九、会員番号1365さんの意識

*****さん、背中の鉄板という意味が、あなたの内で分かつてきましたか。

はい、己の偉い私を感じています。やらねばならない、何々しなければならない、そびえ立つ私を感じてきました。鉄板を背負つて、私は、ずっと生きてきたように思います。

どうして、私は、こんなに自分を苦しいところに追い込んでしまったのか、今、そのことを感じています。誰も何もあなたにこうしなさい、ああしなさいと言ったわけではありません

でした。私自身が勝手にそびえ立ち、私自身が勝手に、こうしなければならない、ああしなければならない、そのように自分を追い込んでいったのでした。

そのことを、私は、三月の瞑想会で、少し感じさせていただきました。

苦しいところに追い込んでいったのは私でした。部厚い鉄板を背負つたのは、私でした。本当に愚かな私を、今、感じています。

異語。

* * * *さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、申し訳ございません。心を解き放つことをやつてまいります。私は、何もできておりませんでした。私はできている、私は分かっている、感じてきている、私は、こんなに一生懸命やつている、その思いだけで過ごしてまいりました。その思いがすべて、ブラックであることに、私は、気付きませんでした。心を見ているつもりでした。心は何かを感じ、そし

て、私は、自分を語ることをしてきたつもりです。

ああでも、それはすべて、私を、苦しい私を押さえつけて、語つてきたに過ぎなかつた。今、心が少し開く時、ああ、自分は小さな中に閉じこもつてきましたんだなあ、そう感じます。田池留吉、お母さんに心を向けてまいります。ありがとうございました。

一〇、会員番号1743さんの意識

* * * *さん、あなたの中にも喜びがありましたね。どうぞ、その喜びをしつかりとあなたの中で育んでいくください。

では、あなたの今の思いを語つてみてください。

長い、長い時間がかかりました。ああでも、今世の時間なんて、私の転生からすれば、ほんのひとときだつたんですね。

そのひとときのうちに、私は、自分の中をこのように見させていただけることができて、今、とても、嬉しいです。

間違つてまいりました。凄まじいエネルギーを蓄えてきた。
お母さんに対して申し訳ない。自分に対して申し訳ない。そんな思いでいっぱいでござい
ます。

異語。

* * * * *さん、どうぞ、自分で、母を思う瞑想、田池留吉を思う瞑想、淡々と続けて
いつてください。それがあなたのこれから転生に繋がつてまいります。

他力のエネルギーを蓄えてきたあなたです。あなたもその例外ではございません。しか
りその他力のエネルギーを、自分で見つめ、そして、ともに、温もりへ帰つていこう、い
つも、いつも、そのように、思いを向けていつてください。
二十五〇年後を楽しみに待っています。

一一、会員番号1414さんの意識

* * * *さん、あなたの心を語つてみてください。

すべてを整えて生まれてきたことを感じます。何も無駄なことはありませんでした。私にとつてすべて必要でございました。

なぜ、こんなに苦しい中に生まれてきたのか、私は、恨みの思いを広げてきた。憎しみの思いを広げてきました。それは、すべて、私が用意してきたものでした。私が私を見つめるよう用意してきたものでした。

私は、自分という存在がすごいということを感じています。

本当に自分自身、生まれ変わりたい、やり直したい、そのように思つて、生まれてきたんだなあ、今、そう思います。

私が私を見つめるとき、何とも言えない思いを感じます。こんなすごい私を何度も、何度も受け入れてくれた、それを思うとき、私の中には言葉はありません。

* * * *さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

*****の意識でございます。お母さん、申し訳ございません。凄まじいエネルギーで、自分自身を叩きのめしてきたことを感じます。

ああでも、私は、私をこのように待つてくれていました。

心を広げてまいります。かじかんだ心を広げていきます。ひねくれた心を広げていきます。もう素直になつて、あなたのの中にすべてを委ねていきたい、今、そのように思っています。

一一 会員番号1158さんの意識

*****さん、他力の反省は進んでいますか。

他力の心、他力のエネルギー、自分の中に蓄えてきた他力のエネルギーを、私は、まだはつきりと自分の中で見つめていません。

そんなにすごいエネルギーを蓄えてきたのかと、まだまだ他人事のようにとらえています。自分の幸せを願つてきました。パワーを求めてきた思いがとても強いです。幸せにしてください、幸せにしろ、そんな思いを広げてきました。

母親に対してもその心を使つてきました。

何もかもうまくいかなかつたとき、私は、周りをみんな蹴散らしてきました。

私は、自分の幸せを望んできました。自分の幸せはどこにあるのだろうか。何をすれば、何を持てば、自分は幸せだと感じるのか。そのような思いをずっと広げてきました。そのためには、他力のエネルギーを自分の中に培つてきました。

他力の反省が進んでいません。母親に対しても思ひを見ていくと、他力の壁にぶつかります。母親はその壁を自分で崩していくきなさい、そのように私にこの肉をくれた。少しそう感じるけれども、私の中の壁は、まだまだ部厚いのを感じています。

*****さん、あなたは、他力の反省が進んでいないと語りました。そうですね、他力のほうにがつちりと自分を向けています。そのエネルギーは、すごいです。

あなたの目を感じます。田池留吉に向けてあなたのエネルギーを出すときのあなたの目を、あなたはご存知ですか。

どうぞ、田池留吉の目を見ることを、今、やつてみましょ。

異語。

はい、田池留吉の目を見ることができません。私は、自分の目を見開いて、田池留吉の目を見据えてやることができると思つてきました。ああでも、田池留吉の目の前に、私の思いは、小さく、小さくなっています。

脅えている私を感じます。こんなのは初めてです。田池留吉の目は、私のすべてを見透かしている。私は、田池留吉を見くびつてきました。心に蓄えてきたエネルギーを、自分の中で真剣に見つめてまいります。

私は、自分に冷たくて厳しかった。目を見開いて見てやると、私は、自分に冷たくて厳しい波動を流し続けてきました。

そのことを、今、少しだけ、感じさせていただきました。

一三、会員番号1666さんの意識

*****さん、あなたの思いを語つてみてください。

己一番の世界を広げてきました。私はやつてきました。己一番でございました。ああどうしても、この己という壁を崩すことができなかつた。できません。

他力の反省が進まないのは、そうです、私は、他力のエネルギーに一体化している自分を感じています。他力そのものでございます。

私も、自分の中に他力のエネルギーが、しっかりと詰まっていることを感じながらも、やはり、そう、他人事のようにとらえていました。

少しは、他力のエネルギーが薄れているだろう、少しは田池留吉に心を向けている、少しは母親の反省ができてきた、とんでもございません。

私は、本当に甘くとらえていました。この学びを甘くとらえていました。田池留吉を甘くとらえていました。この学びすべてを甘くとらえていた。

そんな自分を感じます。

今、私の歳になつて、このように厳しく語るのは、肉の自分にとつて、とても辛いところ

がござります。

でも、私は、私自身を語らねばなりません。なぜならば、私も、この学びに繋がったからです。この学びに繋がったからには、どうしても自分を変えていかなければならない、そのように、私は生まれてきたのだと思います。これから転生があります。しっかりと自分を見つめていこうとしています。だから、私は、私を厳しく、厳しく、見つめていきたいと思い、この申し込みをさせていただきました。

他力の反省が進んでいないことを、私自身に伝えたかった。そう伝えたかったです。

* * * * さん、どうでしようか。あなたの思いを、少し語っていただきました。肉のあなたは、これをすんなりと受け入れていけるでしようか。

私は、これだけの年月をかけて、この学びをやつてきた、その思いが、あなたのの中には、確かにあります。その思いが強いと思います。

ああでも、これから時間の中で、自分を厳しく見つめていくために、あなたは、転生を重ねていくと思います。

どうぞ、あなたの今の思いを、何度も読み返してください。そこには、あなたの偽らざる思いが溢れていると思います。偽らざる思いとは、本当の自分に出会いたいという思いです。

どんなに他力のエネルギーに心を向けても、この学びに繋がった意識は、必ず、自分の間違いに心で気付く時を用意していきますと、私は伝えました。

落ち込まず、めげずに、時間の許す限り、自分に誠実に応えていつてください。学びは厳しいです。学びは、眞実だから厳しいのです。

一四、会員番号1261さんの意識

* * * * *さん、あなたの心を素直に語つてみてください。

この学びに繋がり、私は、自分の間違いに気付くよりも、なぜ私を生んだのか、母に対して恨み辛みを感じてきました。

肉の私は、母への思いを素直に表に出すことはできませんでした。

ああでも、私の中は、母の意識に対して、大きな憎しみと恨みの思いを抱えて、今世も生まれてきたことを、伝えたかったのです。

肉をまとう私に、私の思いを届かすには、並大抵のことではありませんでした。

母を見捨ててきた自分自身だから、他力へと心を向けました。他力へひたすらに自分の心を向けました。

自分のエネルギーをすべて、他力に注ぎ込んできました。

母を見捨てました。母をないがしろにしてきた。母などいらぬ、私は、そのような思いを抱えて、今世、肉を持ち、そして、この学びに繋がりました。

私の思いを素直に語りなさいと、伝えてくれています。

素直に語らせていただきます。私は母を、恨んできました。憎んできました。こんな私に肉をくれた母親に対して、私は、大きな、大きな間違いを犯してまいりました。

異語。

* * * *さん、肉のあなたは、するべきことをしてこられたと思います。あなたは、あなたなりに反省をしてこられたと思います。

ああ、しかし、あなたの中の思いを、今、語つていただきたいと、中はすごいのです。すごいエネルギーが渦巻いています。

肉のあなたができるることは、淡々と母親に使った心を思い出し、そして、できるとかでき

ないとかは別として、田池留吉を思うことです。

肉の色々な事情、出来事はあります。しかし、あなたの中の思いを、今、あなたも感じられたと思います。

どうぞ、もう、これから肉の時間、何はなくとも、反省と瞑想の時間に割いていってください。

異語。

田池留吉に対する思いを語りなさい。

田池留吉、田池留吉、はい、私は、田池留吉を見下げ続けてきました。

心の中に喜びも幸せも感じられなかつた。ああだから、私の転生は苦しかつた。ああこの思いを、すべて田池留吉のせいにしてきました。私は、自分が間違つてきた。自分は本当のことを探らずに存在してきた。自分を蹴散らしてきました。

本当に愚かな私を感じます。

田池留吉に対する申し訳ない思いを感じます。

くそつたれの思いをどれだけ広げてきたか。それでも、私は、今、このようにして、肉体をいただいています。

田池留吉に対する思いを見てまいります。

一五、会員番号1381さんの意識

*****さん、母親の反省が進んでいないようですね。手順を飛ばしては、この学びはできません。お母さんに対して、どんな思いを広げてきたか、あなた自身が瞑想をする中で、しつかりと確認していくください。

あなたの思いを語つてみてください。

肉の喜びと幸せを求めてきた人生でした。ああでも、私の心の中で、何だか、それが違つてているように感じます。今世の私は、それを感じます。

心が苦しくてなりません。心が寂しくてなりません。

お母さんの反省をしなさいと言われ続けてきました。ああでも、私は、母の反省ができな

いんです。母に思いを向けることが恐いんです。母に思いを向ければ、私の中は、たちまち崩れていってしまうようなエネルギーを感じるからです。

ああ、こうやって語っている時、母に対して、どれだけの凄まじいエネルギーを流し続けてきたか、今、私は、心に感じます。

ああ、このエネルギーを、周りに流し続けていたんですね。主人も子供もみんな、みんな、蹴散らしてきました。

私は、それを認めることができなかつた。なぜならば、私は、己が、とても偉いからです。偉いくせに、とても小心なんです。そんな矛盾を、今、心に感じています。

異語。

* * * * さん、時間を見つければ、瞑想することを続けていつてください。

心の中にブラックの塊があるでしょう。あなたは、それを早く吐き出したいと思つています。しかし、あなたが語ったように、あなたのなかがまだ整つていないのです。

ブラックの思いを吐き出しても、それをどのように自分で受け入れていくか、そのところで、あなた自身、迷つてゐるし、自信がないのです。

だから、あなたは今、宙ぶらりんです。

肉の喜びと幸せを求めることに、限界を感じています。だからといって、眞実の方向に、心を向けていこうとするはつきりとした思いが、まだまだ希薄です。

いいえ、もっと言うならば、あなたは、肉の喜びと幸せを求めることに、限界を感じていなければ、やはり、あなたがつかんでいるのは、肉の喜びと幸せ、肉の自分を基盤にした諸々です。

あなたは、その基盤から、自分を解き放つことを拒んでいると言うほうが、今の時点では正確でしょう。

その方向を変えていくのは、あなたです。

あなたが、お母さんに向けてきた思いを振り返つてみるとか、そして、生活の中で、最初は、時間は短くてもいい、ふうっと自分を思つてみる、そんな時間を作つていくとか、そういう肉の努力を、まずなさつてください。

中は、待っています。もしかすると、見切り発車して出てくるかもしれません。そういううちに、肉のあなたが、まず、母を思う瞑想を習慣にしてください。

一六、会員番号11111さんの意識

*****さん、あなたの思いを語つてみてください。

自分が中がこれほど狂っていたとは、私は驚いています。自分の中が、これほど荒れ狂つていたとは、自分自身驚いています。

周りの現象から、私は、自分の心を見てきたつもりでした。しかし、自分の中の意識達、その意識達の苦しさ、今にも狂い出し、喚き散らし、本当に真っ暗な中にいる意識達、すべて私がございました。

そんな私を、今、ようやく心に感じ始めています。

心が敏感だと思つてきました。少しは私も、田池留吉、アルバートに心を向けているのかなあ、お母さんの温もりを感じているのかなあ、そう思つてきました。

心に伝わつてくる意識も、私は感じてきました。でも、そんなの、本当に上滑りの意識の世界であり、私の反省であり、そういうことを、今、ようやく、年月を重ね、心に響いてきます。お母さん、お母さん、お母さんは、私を受け入れてくれた……。その思いが心に響いてくる時、ああ、私もお母さんに肉体をくださいとお願いをした……、そんな思いが、切々と響いてきます。

お母さん、申し訳ございません。そして、私自身、もつと、もつと、自分を大切にしていこうと、今、感じています。

異語。

* * * * *さん、心を語る時のあなたの波動、私は、今、感じさせていただきました。学びを浅く、浅くとらえていたあなた自身を、あなたは、反省されていました。

今、あなたの心に伝わってくるあなたの思いを、しつかりと瞑想をする中で感じていってください。

田池留吉、そしてアルバート、二五〇年後、次元移行、中の意識達は、その方向に思いを向けていけることを、心待ちしています。

あなたが、心が敏感だというその基盤は、肉でございます。そんなちつぽけな世界ではございません。あなた自身、そんちつぽけな世界に存在しているのではございません。

どうぞ、心を見ていくください。瞑想を重ね、自分の意識の世界を、どんどん感じていってください。

あなたにも、もちろん、転生があり、その転生を経て、二五〇年後に心を繋いでいく大切

な今の時間です。自分の心をしつかりと見つめ、その基盤を変えていくこと、今世の肉の時間の許す限り、そのことに専念していってください。

一七、会員番号1330さんの意識

＊＊＊＊さん、あなたの心を語つてみてください。

お母さん…、お母さんを求めてきました。憎み恨みながらも、母を求めてきたこの心に、素直になつていこうとしています。

ああでも、それを遮るたくさんの私…。本当に間違つてきました。自分に冷たいことを感じます。パワーを求める心は、とても冷たかった。

パワーを求めて、私は、幸せになれなかつた。だけど、パワーを求めてきた。なぜなんだろうか。お母さん、あなたの心へ戻つていこうとしている私を感じる一方、凄まじいエネルギーを、また一方で感じます。

お前は、パワーを求めてきたのではないのか。お前が求めるパワー、素晴らしいと、お前は、

このパワーのもとにひれ伏してきた。そのことを忘れるな。心の中の温もりだと、そんな、たわ言に耳を傾けるな、心を向けるな。

そうやつて、私に言つてくる意識達、みんな私なんですね。私は、その私を、まだまだ受け入れていけるだけの優しさを、自分の中で確認していません。

異語。

* * * *さん、田池留吉を思つてみてください。

異語。

田池留吉、お前に心を向けるなど言つてきた我らの声が、お前には届かないのか。温もりなどお前には要らないはずだつた。なぜそんなに温もりを欲しがるのか。パワーをやる。パワーをくれてやる。パワーを身につければ、お前の心を素晴らしい世界へと導いていくぞ。田池留吉に心を向けることをするな。

このように答えてくる私の中の意識達がございます。

ああしかし、田池留吉は、待つてくれている。お母さんの優しさを感じます。何も言いません。何も言わないけれど、両手を広げてくれているお母さんを感じます。あそこへ、私は、戻つていこうとしているんですね。

自分の中を、しっかりと見てまいります。

異語。

一八、会員番号1208さんの意識

*****さん、この学びは、二足の草鞋を履いていてはできないんです。

あなたの基盤は肉にありますね。そのところを、もう少し、しっかりと見つめていくください。あなたの思いを聞いてみましょう。

この肉の喜びと幸せを追い求めてきた意識に、そうではないことを伝えていくのは、とても難しいと感じています。

すべては、肉一色でございました。私の転生はみんな肉一色でございました。それが、今、この肉を持たせていただき、自分達の本当の姿は形がないということを、教えていただきました。頭の中を通過しています。そういうこともあるのかなあ、ああだけど、私は、今、まだまだ自分と自分の家族、周りの人達みんなを、形あるものとしてとらえています。その中で、いかに、生活をしていこうか、この学びを取り入れながら…、そういう思いを、心に抱えたままでございます。

異語。

* * * *さん、心の学びは、他力信仰ではないのです。他力信仰とは、全く異なるものです。どうぞ、そのところを、もう少し、あなたの心で知っていくようになさってください。

自分の生活がうまくいくように、滞りなく生活できるように、そして、この学びで伝えていただいた幸せとやらも、喜びとやらも、自分の心で感じていこう、そういうことは、不可能でございます。

現実、私達は、今、形を持つて、この形の世界に存在しています。しかし、意識の世界、自分の意識は、どちらを向いているのか、それをはつきりと自分で確認していくために、あ

なたの今世があつたのでないでしようか。

これからも、あなたの転生は続していくと思いますが、ただその一点だけの確認、今からしていつてください。

一九、会員番号1578さんの意識

* * * *さん、あなたの心を語つてみてください。

己の偉い私は、自分のそびえ立ちを見てきたつもりでした。ああ、見てきたつもりでした。しかし、まだまだそびえ立つ自分を完全に見ることはできていません。それほどどのエネルギーを蓄えてきた私でした。

我一番の世界を広げてきました。自分ほど偉いものはない、そんな世界を私の中に作り上げてきた自分自身でした。

周りがそのことを見させてくれている。特に、私の夫にその思いを感じます。夫の姿は私の姿、ああそんなことはない。私と夫は違う。とても受け入れられないし、認められない思い

でいっぱいです。

優しい思いを、夫に向けていこうとしてきました。肉でも努力をしてきました。しかし、それには限界があります。私の中がやはり、変わつていかない限り、夫に対し、優しさが心から湧いて出でこないことを感じます。夫だけではありません。私の中の私、たくさんの私に対しても、お母さんが私を受け入れてくれたような思いで、包んでやることはできないことを、今、感じています。

異語。

* * * *さん、どうぞ、優しいあなたを信じて、信じて、信じていってください。瞑想をしていけば、凄まじいエネルギーの自分を感じていくでしょう。それでも、今、あなたがそこにあるという現実、これこそ、あなたが優しさゆえだからです。あなたが温もりに他ならないからです。あなたが、今そこにある現実、それこそ、唯一のあなたの思いではないでしょうか。それ以外は、真っ黒です。真っ暗です。

お母さんが受け入れてくれたから、あなたが、今そこに肉体を持つています。その現実を、しつかりと思いやりながら、瞑想を続けていくてください。

一一〇、会員番号1784さんの意識

*****さん、田池留吉に対して、どのような思いを向けてこられましたか。

心が苦しくなりません。心が苦しい、田池留吉を思う時、私の心は苦しい、そんな私を感じました。

田池留吉を素直に見ているつもりでしたが、私は田池留吉を恐れています。

自分の心の苦しさが、自分の心の凄まじさが、はつきりと浮かび上がつてくる田池留吉を思う瞑想です。

そんな私に、お母さんが伝えてくれます。

愚かなあなたを知つてください。愚かなあなたを知つていくんですよ。心の中の貧しさは、あなたの自身が作り上げた世界です。私は、そんなあなたに、心で気付いてほしいとあなたをこの世に出しました。どうぞ、母の思いを受けてください。

そんな思いが伝わってきます。

田池留吉、田池留吉、心から素直に田池留吉を呼ぶ私を、今、心に感じます。その前に真

つ黒な、真つ黒なエネルギーを感じます。ああこれが、私の心、これが私の意識の世界。この真つ黒な塊を、自分で中で溶かしていかなければ、田池留吉の世界に通じ合うことはない。今、そのように、伝わってきます。

異語。

* * * * *さん、自分の心を感じられましたか。あなたの心で自分を感じていますか。

真つ黒な、真つ黒な塊の中に、あなたの真実は、書き消されています。

それがあなたの現実です。瞑想をすれば、感じると思います。

今世の時間を大切にしていくください。

真剣に自分と向き合っていってください。

ただ、私は、そのことをお伝えします。

あなたが、あなた自身を感じてくれば、この短いメッセージがあなたの中できっくり広がつていくと思います。

異語。

一一、会員番号1721さんの意識

*****さん、アマテラスと一体化となつてゐるあなたを感じてみてください。

田池留吉、私は、アマテラスの世界に生きてきました。アマテラスを神として崇め奉つてまいりました。この心、今世修正するために、私は、今の肉体をいただいています。心の中にアマテラスを高く、高く、掲げてきた私でございました。この学びに繋がり、そのことを、しつかりと自分で確認していく計画でございました。

しかし、私の計画は、途中で曲がつてしましました。己を表してきたのです。心に感じる事を、前面に出してきました。私もチャネラーです。チャネラーとしての私を表してきた時がございました。

今は、そのところを、自分なりに見て反省に繋げていると思つています。

ああしかし、アマテラスと一体化している自分の心に、本当の自分の思いを届かすには、まだ至つていなことが現実にあります。

これが私の現実でございます。今、語らせていただきましたこと、ありがとうございます。

嬉しいです。お母さん、私は、間違つてまいりました。間違つてきました。あなたに肉体をいただき、私は、間違つてきた自分を知りたかったのです。

今、この時期に、私は、このように語らせていただけたことが、何よりの喜びだと感じています。これから、ただただ、私は、自分を見つめ、人と競争することなく、そして、落ち込むことなく、また、己を持ち上げることなく、淡々とやつていこう、今、そのように思つています。

異語。

* * * *さん、よかつたですね。あなたの心を、今語られたように、あなたの学びを進めていつてください。いずれ、私達と出会う時がやつてくるでしょう。それまで、淡々と自分の道を歩んでいつてください。

その過程において、アマテラスもありました。その他諸々の他力の神も、あなたの心に語つてくるでしょう。

しつかりと心を見つめて、二五〇年後の出会いを、大きな喜びとしていこうではありますか。

一一一、会員番号1730さんの意識

*****さん、あなたが瞑想をする動機を語つてみてください。

はい、立派な自分、己の立派さを自分で確認したかった。以前はそうでした。その思いがとても強かつたです。今は、その思いを、自分なりに見つめてきて、その思いは、少し薄れてきているような気がします。

しかし、依然として、やはり、私は、己の立派さを認めてもらいたかった。認めてほしい思いがとても強いです。

こんなに私はやっています、こんなに私はやつてきました、その思いを認めてほしかったのです。

*****さん、お母さんのほうに思いを向けてみてください。

異語。

お母さん、お母さん、お母さん、ただただ私を受け入れてくれた。ただただ私を受け入れてくれた、その思いの深さに、私は、己の愚かさを感じ、何とも言えない思いでいっぱいです。

お母さん、お母さんを思う時、何もない私を感じます。何もなかつたんですね。いつも、いつも、この私に戻り、そして、毎日の時間を送つていきます。

私なりにやつてきたつもりでした。しかし、お母さんの思いの深さを、今、心に感じ、私は、自分の中のエネルギーと真向かいになつてはいなことです。

どれだけの思いで、お母さんに願い出でてきたのか、今、お母さんの思いを感じ、それが、心に伝わってきます。

異語。

田池留吉の言う方向に心を向けることをしてこなかつた。今、はつきりと感じます。学びをやつてきたつもりになつていました。つもりはつもありでした。私もそうでした。他力の中にいながら、田池留吉の方向に心を向けようとしても、できない相談でした。

今、自分の中に響いてくる思いは、そのような思いです。

間違つてきたことを感じています。確認できてよかったです。ありがとうございました。

一三、会員番号1774さんの意識

* * * * さん、お母さんの温もりを心に感じていますか。

お母さんの温もりですか、まだはつきりと感じているとは言い難いです。お母さんを思えば、嬉しいという時もあります。ああでも、私の中には、母を思う瞑想をして、自分の中の闇が出てくることを恐怖する思いが、まだまだたくさんあります。母の温もりで包んでいくことは、頭では分かっています。しかし、私は、その自分の凄まじいエネルギーに飲み込まれていきますで、しつかりと自分と向き合うことができん。

母の温もりを感じていなからだと思います。

そうなんですね、私は、お母さんの温もりを、心にしつかりと感じていません。

狂つてきた自分を思い、自分の中のエネルギー、どうしようもないほど荒れ狂つている自分を、私は、しつかりと抱きしめてやれない、そんな私です。

異語。

* * * * *さん、どうぞ、田池留吉を思い、母と思う瞑想、どんなにあなたの中が遮つたとしても、それを、継続していつてください。

それしかないので。自分自身をしつかりと見つめていけるのは、あなただけです。今、肉を持つてゐるあなたが、あなたを見つめるということをしなければ、真つ暗な意識の底に沈んでいるあなたを、救い出すことはできません。

日常の中で、まずは喜んでいきましょう。どんな些細なことも、喜べるあなたであつてください。

幸い、あなたは、ご夫婦でこの学びをされています。互いに互いのエネルギーを感じ、苦しい時も多々あると思いますが、それでも、今、この学びに繋がり、田池留吉、そしてお母さんを思う瞑想を、それぞれがやつていけることを、喜んでいつてください。

ご夫婦で、異語を通して、思いを交わしておられますか。

どうぞ、互いに異語を通して、心をさらけ出していつてください。

異語は、正直です。異語を通して、真つ黒な思いを吐き出すけれども、その中に秘めた優しさ、

その中に秘めた思い、どうぞ、あなたの心で感じていってください。

一四、会員番号1746さんの意識

＊＊＊＊さん、あなたの今の思いを語つてみてください。

心を見る難しさを感じています。田池留吉先生の学びを、私はしてきました。心を見るこ
とを、一生懸命にしてきました。しかし、私の基盤を変えていくことは難しいです。他力の思
いをしつかりと心に抱えたままです。

私は、自分のその現実をまだしつかりと把握しておりません。

心が荒れ狂っているとか、心の中の凄まじいエネルギーとかということを、目にしたり、耳
にしたりすることはあっても、私自身まだ、自分でピンときていらない状態でござります。

＊＊＊＊さん、あなたが心を向けてきた他力の神々に、今、思いを向けてみてください。

異語。

他力の神々、私を幸せにしてください、私を幸せに導いてください。この心もすべて、すべて、あなたに差し上げます。私の思いを、どうぞ、叶えてください。どうぞ、どうぞ、叶えてください。私は、喜びと幸せを求めてきました。転生を重ねて、私は、その中にどっぷりと浸かっています。他力の神々にすべてを捧げてきた私自身でございます。心の苦しさも、まだまだしつかりと感じていません。なぜならば、他力の神々が素晴らしいと、私の中で思っているからです。どれだけ自分を裏切ってきたかなんて、私は、自分の中ではつきりと確認しておりません。自分の冷たいことも、はつきりと分かりません。

しかし、今、このように語らせていただいて、自分の中の奥底に、真っ黒な、真っ黒なエネルギーの塊を感じます。

ああ、この真っ黒な塊を、自分で確認していきなさい、そのような学びでございました。私は、学びをしてきたと語りましたが、それどころではございませんでした。

異語。

* * * * *さん、あなたが、今、あなたを語ったように、どうやら、あなたも、この学びを浅く、浅く、と/orていていたような感じです。田池留吉の指示示す方向は、そういうものではございません。

確かに、心を見てこられたと思います。しかし、それは、肉を基盤とした中においてに過ぎないんです。

と言つても、このことを、なかなか心で感じることは難しい、そのことを私は、ずっと、ずっと言つてきました。

あなたは、本当に学びをやつてこられましたか。今一度、自分の心に問いかけてください。素直に問いかけてみてください。

異語。

田池留吉が何だ。田池留吉が何だ。私は、私の幸せを求めてきたはずだ。私の幸せはどこにある。私の喜びはどこにある。田池留吉、お前の言うことなど、さっぱり分からん。そのような思いで、ずっとこの学びをやつてきた、そんな感じがします。

ああ、これが私の偽らざる声なんですね。この声をしっかりと、今、聞かせていただき、私は、本当に、真剣に自分を見つめてまいります。

なぜ、生まれてきたのか、なぜ、今のこの時間があるのか、しっかりと見つめてまいります。

二五、会員番号1623さんの意識

* * * *さん、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

はい、田池留吉を、今、心に呼びます。はい、心の中の真っ黒な、真っ黒な私を感じます。田池留吉の目に歯向かっている私のエネルギーを感じます。心の中の凄まじいエネルギーを感じます。

お母さん、くそったれ。お母さん、くそったれ。田池留吉、お前など、死んでしまえ。お母さん、くそったれ、くそったれ、くそったれ。そんな思いを感じます。

ああ、これが、私がずっと、ずっと転生をしてきた中で培ってきたエネルギーだつたんですね。すべてを蹴散らしてきました。己の保身のために、すべてを蹴散らしてきた私を、今、

感じます。

異語。

*****さん、心の中の田池留吉に向けて、あなたの凄まじいエネルギーを感じましたか。少し、感じましたか。その少しでもいいんです。あなたの心で感じるということを、大切にしていてください。

この学びは、頭で理解するのではありません。心で感じていく学びです。

どうぞ、日々の瞑想を通して、田池留吉に対する思いを、見ていてください。自分の心を押さえつけても、真っ黒は、真っ黒です。

どれだけ、立派な言葉を並べても、あなたの中は、温もりに帰りたい、本当の自分を取り戻していきたい、そんな思いから、今までの間違つてきた自分をさらけ出したい、何もかも洗いざらいさらけ出したい、そのような思いでいます。

どうぞ、その思いを、しつかりとあなたの頭ではなくて、心で感じていてください。

そんなに簡単に温もりに帰ることはできないし、もちろん、自己供養も難しいです。まずは、自分が間違つて存在してきたこと、どれだけの凄まじいエネルギーを蓄え流し続けてきた

か、この宇宙を汚し続けてきたか、そんな自分であることを、お母さんに向ける、そして、田池留吉に向ける瞑想の中で、感じていてください。

異語で、どんどん、あなたの思いを語つてみてください。言葉をつかまことに、あなたの心に感じる瞑想、それをしていつてください。

一一六、会員番号1816さんの意識

*****さん、あなたの今を語つてみてください。

心の中には何か不満があるとか、そういうのではありません。でも、私の心の中はすつきりと晴れていないことを感じています。

それは、私自身が計画してきた通りに、まだまだその通りの道筋を歩いていないからです。

肉は一生懸命に行こうとしています。しかし、なにぶん肉の思いが強い私には、この肉の自分を、まだまだしつかりと抱えながら、何かもうひとつ自分の内で、すつきりとしない私を感じています。

それはその通りです。なぜならば、私は、そういうことを望んでいなかつたからです。

私もまた、母から肉体をいただいた時、自分の間違いを修正するために、そのためには生んでくださいと、そのように母に言つてきたはずです。

その思いを私は、しつかりと自分の中心に据えていない、それが私の今です。何をどう語ろうとも、私の現実はそなんです。

色々な現象を通して、自分の道が真っ直ぐに進んでいないことを、私に知らせてくれています。

ただ一点だけを見つめて行きなさい、そう自分が言つてくれてているような気がします。しかし、心のモヤモヤをすつきりとさせたい思いが現実化してくるには、まだ少し時間がかかりそうです。

田池先生との出会いから、長い年月を経きました。長いと言つても、私の転生からすれば、ほんの僅かな時間です。その僅かな時間で、しつかりと自分を見つめていくには、あまりにも、私は、多くのものを心につかみ過ぎました。

こうやつて、誰憚ることなく、自分を語ることができることが嬉しい、今、そう思います。どんなに取り繕い、どんなに飾つてみても、自分が自分を一番よく知っています。だから、焦らずに、淡淡と、自分に誠実にということなんですね。

今世、自分に残された時間、精一杯やつてまいります。

異語。

* * * * さん、田池留吉を思つてみてください。

異語。

田池留吉、お母さん、申し訳ございません。己が偉いということを、心で感じるには、あまりにも偉すぎました。

私には、何もありません。もうすでに、喜びへの道を示されていました。あとは、自分が、その道にどれだけ近づき、そして、真っ直ぐに進んでいけるか、それだけです。

肉のことを持ち出せば、色々な思いが出てきます。しかし、そんなことは、本当は、どうでもよかつたんですね。今、田池留吉を思い、お母さんを思つてみると、そのような気がしてなりません。

二七、会員番号1791さんの意識

*****さん、本当の自分は何を求めているのか、そして、あなたは何を求めているのか、あなたには、もうそれが分かっていると思います。

どうぞ、語つてみてください。

はい、本当の私は、この私、本当の私に出会ってほしい、この私が私だと、そう心で感じていく方向に歩みたい、歩んでほしいということです。

そして、肉の私は、今、目の前にある様々なことを、まずしてから、この学びをという思いでいます。肉の私という思いをしつかりとつかみ、その上で、この学びをという思いでいます。

*****さん、あなたの中に矛盾があり、それがあなたを迷わせているというか、苦しめているというか、そういうことです。

あなたの思うこと、語ること、学びといつても、あなたの基盤は肉にあります。肉のあなたを中心にして、色々なものを見て聞いて、そして、この学びを考えています。

そうだということを、まず自分で気付かなければなりません。そうでなければ、どんなに母親の反省をしていこうとも、上滑りの反省に留まってしまいます。上滑りの反省で感じるあなたの中の闇の部分からは、お母さんの温もりもまた、その程度に留まってしまいます。年齢も半ば、どうでしょうか。このあたりで、もうどちらか、自分の生き方を決めてみてはどうでしょうか。

あなたは、何のために生まれてきたのですか。なぜ、あなたは、今そこにいるのですか。あなたの中で、はつきりと答えを出す時期だと思います。

肉の生活は、どうでもいいとか、そういうことではありません。

ただ、あなたの中をはつきりとさせること、中がはつきりとしてくれば、肉の生活の流れは、自ずと、それに沿つて流れていくものだということを、体験なさってください。

中のはつきりとした思いに沿つて、生活が流れていけば、そこに広がっていく喜びとか幸せは、あなたが、これまで思つてこられた、考えてこられたそれらとは、雲泥の差があることが分かりります。

そうでなければ、せつかくこの学びに繋がったあなたであつても、他力信仰の枠を超えることはなく、あなたがご自身で語つておられるように、今世もまた、足踏み状態になるでしょう。

二八、会員番号1616さんの意識

*****さん、あなたのこの学びに対する思いを語つてみてください。

学びに出会ったことを、本当にありがたいものだと思っています。他力のエネルギーを蓄えてきた私には、学びは、とても難しいですが、でも、この学びに出会えなかつたら、私は、どうなつていたか分かりません。見当がつかないです。

肉の喜びと幸せ、そのことばかりに心を向けてきた転生でございました。今世も、その延長線上にある自分ですが、少なくとも、私の今の時間、自分の心を見るということ、そして、お母さんを思う瞑想をすること、田池留吉を思う瞑想をすること、それを伝えていただきました。学びを振り返り、他力のエネルギーの中で、私は狂い続けてきた自分を感じています。今世もまた、その中についた自分でした。どれだけ学びに集つても、私の中は、依然として他力のエネルギーを蓄えた状態のままが、ずっと続きました。今、この時期になつて、自分の中が、何かしらそういうことが、はつきりと感じられるようになつてきました。他力の心のままの私でした。たくさんのものを心に詰め込んできた私です。幸せを感じるため、喜びを感じるため、

何かに頼ってきた私です。

自分の中からひとつ、ひとつ、離していくこと、解き放していくこと、つかんできたものを離していくこと、それを、私は、これから時間かけて、自分なりに学んでいきたいと思っています。

*****さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉…、田池留吉に心を向ける時、ああ、本当に、私は、何も分かつていなかつたんだなあ、心にそう、響いてきます。

心が何かを感じても、それを自分の修正に活用しなければ、何もならないことを、私は、今、しみじみと感じています。

他力のエネルギーを求める心の底に、寂しい思いがしつかりとありました。

寂しい、寂しい私を、しっかりと見つめてまいります。何も求めず、ただ、自分を見つめていくこと、心の寂しさ、寂しさの中にあつた私自身を、しっかりと見つめていこうと、今、

思っています。

二九、会員番号1184さんの意識

* * * * *さん、あなたの言うように、己を知ることは喜びです。そうですね、本当にそうだと思います。では、あなた自身、あなたを語つてみてください。

己偉い心を蓄えてきました。そのエネルギーを培つてきました。心の中にたくさんの間違つた思いを詰め込んできました。その思いを、しつかりと、今、心に蓄えながら、そびえ立つていてる自分を感じます。

どうして、私は、これほど偉いのか分かりませんが、自分を感じる時、とても、とても、高いところから見ているような、そんな気がします。

母なんて、蹴散らしてきました。肉の私は、そんなことはないと否定するでしょうが、私は、私の母親を蹴散らしてきた。何度も転生をしたけれど、そのたびに、母を蹴散らしてきました。母の思いなど要らなかつた。母の温もりなんて要らなかつた。私は、すべてを牛耳つていくそ

のエネルギーが欲しかったんです。だから、他力の神々に心を任せきました。他力の神々に心を売つてきました。

ああすべてを牛耳る力をください、パワーをください。そうすれば、私は、すべての者のに立つことができる。すべての人の上に立てば、これほどの幸せはない、これほどの喜びはない。頂点を目指す私は、そんな思いを広げてきました。

ああ、しかし、そんな思いとは裏腹に、私の転生の中には、語るも無残な転生が、山ほどあります。

すべてを心の奥底に押し込めてきたけれど、その奥底に押し込めてきた思いこそ、私をこの学びに駆り立てたエネルギーでした。

その思いこそ、本当は、真実を求めてきたエネルギーでした。

今、語ることにより、そのことを感じます。

語るも無残な自分自身、なぜそこまで堕落してしまったのか。

そうです、私は、自分の本当の姿を心に知りたかったのです。

どんな私でもいい。受け入れてくれるまで、私は、転生を続けます。

心の底のヘドロのような塊、すべてを受け入れるまで、私は、私を見捨てはしません。

異語。

* * * * *さん、あなたがあなただと認識している部分は、とてもちつぽけなものだと感じていただけましたでしょうか。

そして、あなたの中にも大きな決意があつたはずです。

どうぞ、真っ直ぐに、自分のその決意のもとに道を進めていくください。心の汚さ、愚かさ、真っ黒なんて、何ということはありません。その底にある本当の自分の思いを感じていけば、どんどん自分を見ていくことが楽しくなっていくはずです。

そのためには、基本をしつかりとしていなければなりません。

母を思う瞑想を通して、母の思いに触れていきなさい。凄まじいエネルギーとともに、母の思いに触れていくんです。

欲を出さずに、ただ、ただ、真剣にやつていけば、狂うことはありません。

本当のあなたがあなたを導いていってくれます。

そういうことを伝えてくれた学びでした。もう自分の心に聞いて、自分の心で答えて、そういう段階なのです。学び全体がそういう段階なのです。

どうぞ、焦らず、たゆまず、瞑想を続け、自分が生まれてきた意味がしつかりと心で分か

るようなあなたになつていってください。

三〇、会員番号1680さんの意識

*****さん、あなたの心を語つてみてください。

己を誇つてきた、それがひとつ大きな間違いでした。学びを知つて、私は益々己を誇つてまいりました。田池留吉に対して、己を認めよという思いを抱えて、私は、この学びに集つてきました。

その間違いに、少しずつですが、今、自分の現象を通して気付かせていただいています。

何一つ自分の思い通りにはならない現象を通して、私は、私の愚かさを見ています。

己が一番でした。認めてほしい思い、それを崩していく転生の数々、今世も、そのひとつに過ぎません。二五〇年後に至る転生も、その中で、私は、苦しみ続けるでしょう。しかし、今、しっかりと自分を見つめていきなさいと、そのように促されている自分を感じます。

今世の私の時間、大切にしていきたいと、今、思っています。

何一つ、誇ることもなかった。私は何だか今、それがとても嬉しい、そう思っています。

＊＊＊＊さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心が敏感な私は、心に何かを感じるたびに、己を認めよと、その思いを前面に出してきました。

申し訳ございません。何も語らざとも、私の中は知っていました。だからこそ、私の今の肉体があり、今の環境があり、これから時間があるのだと、今、感じています。

田池留吉、自分をもつと、真摯に見つめてまいります。自分をもつと、厳しく見つめてまいります。

三一、会員番号1015さんの意識

*****さん、あなたの思いを聞かせてください。

自分で中で学びを、まだまだしっかりと、とらえていなければ、私もまた、今の時間を自分に与えていることを感じます。

どんなに時間がかかるてもいい、しっかりと自分を見つめて、そして、歩んでいきたい、今、そのように思います。

貴重な私の時間、今、心を語りなさいと言わされて、そう感じます。貴重な時間でした。たくさん時間を感じます。

その中の自分、たくさんの自分、今、私は、たくさんの自分を見つめながら、この時間を過ごしているんですね。

少し心に響いてきました。

異語。

*****さん、そうです。あなたもあなたに肉体を用意して、時間を用意しました。そして、遊びに繋がりました。

学ぶ材料は、あなたの周りにたくさんあると思います。そして、意識の流れを文字にした本、それを繰り返し読み、そして、また瞑想をして、自分を振り返り、そういう時間に可能な限り使っていってください。

自分を大切にすることとは、そういうことです。

あなた自身も、自分はなぜ生まれてきたのか、いつも、いつも、そのことを自分に問いかけながら、瞑想を続けていってください。

異語。

*****さん、あなたのの中にも、他力のエネルギーがたくさん詰まっています。どうぞ、誰それの意識、そういうことは関係がありません。あなたの参考にしていってください。

みんなあなたの心、みんなあなたの世界、そのように、自分で感じることができます。あなたも、自分の中を、もう少し、語ることができます。自分の中を語っていくのは、自分です。他力のエネルギー、他力の思いを、どうぞ、しっかりと見ていくください。

三一、会員番号1709さんの意識

＊＊＊＊さん、あなたの思いを語つてみてください。

何度も、何度も自分の心を見るチャンスを逃してきました。

己偉い私は、自分の心を見なくてはと思いつつ、自分のエネルギーをまだまだ軽く、軽く考えていました。他力の心の根深さを、自分の中で、まだはつきりと知ることはありません。

傍から見れば、あなた、自分のエネルギーを出しているではないのと思われがちですが、私自身、どれだけこの肉体を通して、そのエネルギーを出させていただいても、私の中で、それを真正面から受け止めていないことを、感じています。だから、私の道は遅々として進みません。頭では、充分知り尽くしています。こうすればこうなる、ああすればあある、これはこうでしよう、それは分かっているんです。ああだけど、自分の心が納得していない、中が納得していない、そんな自分を、今、感じています。

異語。

* * * * *さん、それでもいいんです。苦しみながら、苦しみ喘ぎ続けながら、何度も落ち込みながら、それでもあなたはこの学びをしていかなければなりません。

それは、あなたが、あなたの内で約束してきたことがあるからです。

本当のあなたとの約束を、あなたは破ることはできません。

どんなに落ち込んでも、どんな状態で今苦しんでいようとも、あなたは、あなたの心の方に向をえていくために、これから的时间を用意しています。

もつと、心を広げて、自分を見つめてください。

優しい思いで、自分を見つめてください。

ゆつたりと自分を見つめてください。

あなたの時間は永遠です。あなたは、あなたを、見捨てる事はありません。どうぞ、そのところを、自分で、もう少し、素直に感じていってください。

二三、会員番号1112さんの意識

* * * * *さん、どうぞ、心を田池留吉に向けて、あなたを語つてみてください。

田池留吉、田池留吉、申し訳ございません。はい、長い年月、私も学ばせていただきました。私は、自分の中を見てきたつもりです。母に向けて瞑想もしてまいりました。

しかし、今ひとつ私のを感じています。田池留吉を心から信じられない私を感じています。なぜなんだろうか。自分に問い合わせてみました。

心の中の他力です。他力の思いをしつかりと見てこなかつたからです。

私は、他力の反省をしてきたと思ってきました。でも今、田池留吉を思い、その自分を語る時、その他力の反省が、中途半端になつていて、いいえ、それどころか、私自身、本当に、自分が間違つた道を歩いてきたことが、よく分かつていない、そのような感じがします。

上滑りでございました。表面だけを見て、私は、一生懸命やつていると思つてきました。田池留吉、真摯に自分と向き合うということを、簡単に流してきました。
しかし、長い年月、長い時間、私には必要でした。

上滑りの反省でも、反省を重ねてきたことは、確かです。そういうことを重ねてきて、ようやく私は、自分が、上滑りの反省だつたことに辿り着いたのです。

心の中で気付くことは、容易いことではありませんでした。田池留吉、申し訳ございません。本当に申し訳ございませんでした。

異語。

＊＊＊＊さん、よかつたですね。心を語れてよかつたですね。綺麗に自分を飾つてみても、心の底にある思いは、あなた自身を物語つっていました。あなたの波動が物語つっていました。

転生を重ねてきた結果、自分は、これからどのように存在していくのかということ、ただ一点にエネルギーを集中させていこうとする思いの強弱を、波動は物語ります。波動は正直です。そういうところから、私は、あなたを感じさせていただきました。あなたの中の他力のエネルギー、今一度、しつかりと見つめていくください。

古くから学ばれてきたあなただからこそ、これまでの反省と瞑想が、本当に活きてくるようになればいいと思います。

長い年月は無駄ではなかつた、長い時間が必要だつたと、あなた自身は語られました。それならば、ただ一点に自分を集中させていてください。

そこから流れてくるあなたの波動を、私は、きっとキャッチできると思います。

三四、会員番号1708さんの意識

*****さん、あなたの今の思いを語つてみてください。

この学びに繋がり嬉しく思っています。人生も終わりに近づき、私は、学びを知りました。そして、今、瞑想を続けています。これから時間、許す限り、瞑想を続け、自分を振り返つていきたいと思っています。

異語。

*****さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

田池留吉、田池留吉、お母さん。はい、私は、あなたから生まれてきた。お母さん、田池留吉を呼ぶ時、お母さんが出てきます。

お母さんの優しい思いが感じられます。はい、田池留吉は、その母に向かつてあなたが出てきたエネルギーを確認してくださいと伝えてくれています。はい、田池留吉、ありがとうございます、

ありがとう。

心に蓄えてきました。お母さん、ごめんなさい。間違つてきました、間違つてきました。

異語。

三五、会員番号1564さんの意識

*****さん、あなたの思いを語つてみてください。

たくさんの反省を続けてきました。母の反省と他力の反省、私は、この学びに繋がり、長い年月の間、自分なりに反省を続けてきました。

しかし、私の反省は、そう、やはり、肉を基盤とする反省だった。

そのことが少しずつ、今、心に響いてきています。少しずつ認められるようになりました。なぜ、私がチャネラーになつたのか。ああそのところを、私は、よく見ていませんでした。肉を基盤とするチャネラーだと、自分で認めることができませんでした。

反省文には書きます。間違つてきました、肉を基盤としてきましたと。

でも、心の底の底の底を言えば、自分の感じてきた世界が、みんな肉を基盤としていた世界だつたなんて、という思いが、とても強かったです。

しかし、そのことを認めざるを得ないような、今があります。

本当の自分の世界に帰りたい、温もりの世界の中へ自分を帰したい、そのような思いが、心の底から沸き起こつてくれれば、私のこんな思いなど、本当に取るに足らないものだつたんですね。肉の＊＊＊＊を掲げてきた思いは、とてもちっぽけな思いだった。

そのことを、自分で認め、心の中で本当にそうだと思わない限り、私は、どれだけ何を感じ、どれだけ反省をしようとも、あまり変わらないことを、今、感じています。

＊＊＊＊さん、田池留吉に心を向けてみてください。

田池留吉、くそつたれ、田池留吉の思いを抱えて生まれてきた私が、自分の思い通りに、その思いを見させてくれてきました、このことが何よりの喜びだと、今、感じます。
くそつたれ、田池留吉。私のくそつたれは、肉を基盤としたくそつたれでございました。
くそつたれ、田池留吉。心の底の底から起ころうの思いは、大きな喜び。

そのことが、今、ほんの少し自分の中に響いてきます。

三六、会員番号1596さんの意識

＊＊＊＊さん、心を語つてみてください。

はい、凄まじいエネルギーを心に蓄えてきたことを、周りの現象から、そして、自分の身体に起こる色々な不都合から感じています。エネルギーは感じます。自分の中に爆発的な凄まじいエネルギーがあるのを感じます。

こんな私が、よく母から肉体をいただき、今、このようにまだ肉体を持たせていただいているなあ、私はしみじみ思っています。

こんなにすごいエネルギーを蓄えてきた私なのに、今もまだ肉体細胞は動き続けてくれています。

そう思うと、私は嬉しいんです。自分の中の凄まじいエネルギーを感じれば感じるほど、今の自分をありがたく思います。瞑想をすれば、そう感じます。ですが、目を開けて日常生活に

戻る私の目を通して、耳を通して入ってくる映像などで、その微かに感じた優しい私の思いが乱れ、かき消されていく、そんな日々を繰り返してきました。

心のエネルギーを感じさせてくれる肉があるし、それを感じさせてくれる肉がいる。

苦しいけれど、どうしようもない自分だけれど、本当に愛の中に包まれている自分だと、私はこの肉体を終える時までに、少しずつでもいいから、その思いを心に感じながら、死んでいきたいと、今、思っています。

異語。

* * * * さん、お母さんを思い、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、お母さん。はい、素直になることが嬉しいって伝わってきます。本当に小さかつた頃、私は、素直でした。母のおっぱいを吸いながら、私は、お母ちゃん、嬉しいって、嬉しいって、そう思っていた。今、その心に触っています。

ありがとう、今、その心に触れている。ただ、嬉しかった。安らいでいました。

三七、会員番号1599さんの意識

＊＊＊＊さん、どうぞ、頭を動かさず、思いをあなたの中に向けてみてください。どうぞ、そのままで、あなたを語つてみてください。

苦しい思い、寂しい思い、色々な思いを心に感じます。瞑想をしていくと、私の中に様々な思いが上がってきます。おそらく、私の過去世達でしょう。たくさんの思いを抱えて、私は、今ここにいることを感じています。

ああでも、それよりも、心の中の苦しさも、心の中の哀しさも、寂しさも、色々感じるけれど、私は、やはりこうやって自分を感じることができる今を、嬉しく思っています。

心に伝わってくる思いを、私は、素直に自分に伝えられないところがあります。私は、本当は、もつと素直なんですよ。もつと、素直だった。

たくさんの間違いを繰り返してきただれど、私の思いは、素直な私を、もつと自分の中で

広げて確認していくことでした。本当は、もつと、自分を語りたい。凄まじいエネルギーを抱えてきた自分を語ることを恐れできました。

素直にもつと語りなさい、心の中から伝わってきます。

心をもつと広げていってください、そのようにも伝わってきます。

この私の中の思いに、もつと素直になつてみようと、今、思っています。

心に上がつてくる思い、すごいエネルギーがあります。

私も、凄まじいエネルギーの中を繋いできた自分を、感じていきます。

異語。

＊＊＊＊さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉。たくさんの私をもつと、もつと、知つていきたいです。田池留吉、心が苦しいことを、もつと、もつと自分の心で感じていきたいです。苦しい私がたくさんいます。

心の中に私は、本当の優しさを伝えていきたい。苦しい私に優しい思いを伝えていきたいです。

ああこれが、私が今ここにある本当の意味でした。自分を優しく包んでいくこと、そのことをするために生まれてきました。

お母さん、ありがとうございます。愚か者同士、すごいエネルギーでぶつかり合ってきました。でも、私の中にそのエネルギーを見させてくれるから嬉しいって伝わってきます。お母さん、もう少し、学ばせてください。

三八、会員番号1149さんの意識

*****さん、あなたの心を語つてみてください。

心を見るをしていません。私は、今、何を思い、自分が、今、何を感じているのか、心を見るをしてこなかつた私は、何も語ることができないというのが、本当のところです。ああ、しかし、ただ、これだけは、肉の自分に伝えたいと思いました。

私は、苦しいです。何も分からずに、ずっと、転生を繰り返してきた私が、今ここにあることを知つてください。

私は、苦しいです。苦しみの奥底から、このように私は、今世も、肉体を母からいただきました。そして、人生の半分以上を過ごしています。でも、私の中は、何も変わってはいない。ただただ苦しかった。

自分が何を思い、何を感じ、何をよしとしてきたのか、転生のたびに違うけれど、苦しかったのには変わりはなかつたです。

今、私は、苦しいということを、自分に伝えたい。
どんなにこの肉の欲望を満たしたところで、私の中は、苦しかつた。

ただその一点を、私は、私に伝えたい。今、心を語りなさいと言つてくれたから、言います。
私は、苦しいです。

＊＊＊さん、どうでしようか。あなたがあなたを語る時、ただ苦しいって、あなたは語りました。それがどういうことか、あなた自身、もう少し、しつかりとお母さんの反省を通して、心を見ていてください。

今世も苦しかつたはずです。心の中の苦しみが、あなたの 中から溢れてきた場面が、何度も、

何度も、今世もあつたはずです。

あなたは、それを、何とか、何とかと抑えてこられました。
もう自分を抑えることはやめてください。

苦しかつたら、なぜ苦しかつたのか、その思いを、どうぞ、ノートに書き出すとか、して
いつてください。

お母さんに使つてきた心を見ていくのが、一番の近道なのです。どんな些細な思いでもい
いです。とにかく思い出して、あなたの心の中を覗いてみてください。

異語。

今、ようやく、真実の方向に、心を向けるチャンスを自分で作つたあなたです。どうぞ、今
世の時間を大切にしていつてください。

この学びは、何を伝えているのか、しっかりと本を読み、そして、素直になつて、お母さ
んを思つてみてください。

三九、会員番号1134さんの意識

*****さん、他力の反省はどうでしょうか。他力信仰に使つてきた思いを見てきましたか。

他力のエネルギーを蓄えてきた私は、その中にまだどっぷりの私を感じています。確かに、この学びは本當だと感じています。本当のことを伝えてくれていたあの場に集わせていただいたことを喜んでいるのは確かです。

ああしかし、私の中で、自分が過去よりずっと溜め込んできた他力の神々に向けた思いを、まだはつきりとしつかりと感じていません。

子供に対して凄まじい思いを流している自分を感じます。周囲の人達に対し、凄まじい思いを流している自分を感じます。

私は、それをまだまだ自分の中で、抑えているような現実があります。

それが、自分の中から自由に解き放していくことがなければ、いくら、この学びしかないと思っていても、私が感じている世界は、やはり、それでいるのだと、私自身、思っています。

*****さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中に田池留吉を思う時、はい、はい、とても私の中に抵抗する思いがござります。肉の私には、まだその思いが響いていなければ、私の中に、田池留吉のほうに心を向けるなということを盛んに言つてくる私があるのを感じます。

田池留吉の目を恐れlestました。田池留吉を恐れてきた。田池留吉に心を向けることをするなという私の中があるのを感じます。

ああこれが私の他力の心、他力の世界、私が作つてきた他力の世界でございました。今、そのことを、少し、感じさせていただきました。

四〇、会員番号1811さんの意識

* * * *さん、どうぞ、あなたの思いを語つてみてください。

学びを知り、自分の心を見ることをやっている私ですが、とても、この学びは難しいというのが、私の実感です。

私には、私の生活があり、肉の私があります。周りはみんなそうです。社会の中で私が生きていくには、ある程度社会に合わせていかなければなりません。私は、まだそういうところで、何かしら自分が足踏みしているのを感じます。

* * * *さん、焦らずにゆっくりでいいんです。もちろん、生きていくためには、色々な肉のことを見なければなりません。しかし、その中で、あなたはこの学びを知りました。その事実、その現実を、あなたは、今、どのように思っていますか。

異語。

私は、* * * *の中の意識でございます。心を見てくれ、心を見ててくれ、心を見てくれ。苦しい自分をもつと感じていてください。私達を感じていてください。

間違ってきたことを感じていてください。あなたが生まれてきたのは、そのためです。私達の苦しみを心に感じていてください。あなたが何をしても、何を思つても、ただただ、私

達のほうに心を向けてください。苦しいです。苦しいです。はい、肉体に、このひとつ肉の體に思いを込めてきた私達に、心を向けてください。お母さんを思ってください。もつと優しくなつていつてください。私達は、あなたの今の肉体が、唯一の望みです。その肉体を通して心を見て、お母さんの思いを感じて、それらが、どれだけ違つてゐるのか感じてください。

お母さんの思いに心を合わせていつてください。心を向けてくれることを、待っています。

異語。

*****さん、今、あなたの中の思いを少しだけ聞いていただきました。

肉をつかんでいるあなたにとっては、まだまだ遠い、遠い世界のことかもしれません。でも、これがあなたの現実です。肉のあなたはあなたであつて、あなたでないことを、感じていつてください。

これから、様々な場面で、その中の思いに出会つていくと思います。

どうぞ、その時、自分は今、何のためにここにあるのか、今、私の目の前に広がつてゐることは、私に何かを知らせてゐるのではないのか、そういうところから、自分を見つめてください。

さい。肉の側から物事を見るのではなく、あなたの思いを基準として、物事を見ていくください。

四一、会員番号1037さんの意識

*****さん、あなたは、どの程度、これまでセミナーに集つてこられましたか。そして、今、どの程度、この学びについて、田池留吉について、学んでおられますか。あなたに思いを向けた時、他力のエネルギーにびっしりと包まれていることを、感じます。

どうぞ、その他力のエネルギーを、あなた自身、今、感じていってください。

異語。

母親など、私には必要なかつた。母親など、私には必要なかつたという思いを抱えて、私は、今世もまた生まれてきた。なのに、私は、この学びに繋がりました。母親の温もりを自分の中に思い起こす学びに繋がりました。

他力のエネルギーの中で苦しんできた私です。

何を求めて、その中では、全く幸せではありませんでした。

他力の神々に、どれだけ思いを向けても、私は地獄の奥底で苦しみ喘ぎ続けてきました。だから、今世、この学びに繋がりたかったのです。

他力のエネルギーは、すごいです。今、自分の中をこのように語ることが不思議なくらい、私は、そのエネルギーに押し潰されているような私を感じます。真つ黒な、真つ黒な世界にあります私を感じます。

それでもなお、このように肉体をいただき、田池留吉という肉を知り、学びを知った私があります。そのことを、あなた自身知つてくださいと、今、語らせていただいております。

異語。

* * * * *さん、どうでしょうか。あなたの意識の世界、今、心でほんの少し感じられたと思します。どうぞ、母親の反省を進めていくください。

どんなにしても、生まれてきたかつたあなたの思いに行き着くまで、あなたを生んでくださいお母さんに対して使った思いを、瞑想を通してください。それしかあ

りません。

今世を逃すことは、あなたにとって、とても厳しいでしょう。

それほど、あなたは、今世、生まれてきたかつたし、他力の中にある自分に、少しでも安らぎをという思いが強いと、私は、感じさせていただきました。

あなた自身の学びです。あなた自身のこれから行く末を思い、どうぞ、素直になつて、とにかく、母親の反省をして、田池留吉を思う瞑想をしていくください。

あなたの現実は、今、あなた自身が語られたように、他力の中にどっぷりです。その現実を、肉を通して、今、知ったあなたは、どのようにこれから時間過ごしていくか、それはあなたの選択です。

何はさておき、あなたの中の思いの必死さを感じてください。そうすれば、速やかに、するべきことはされると思います。

四二一 会員番号1098さんの意識

*****さん、あなたの今の思いを語つてみてください。

お母さんに使つてきた心を振り返つて いますが、心の中の思いを見ていくことは難しいです。母に使つてきた心、たくさん、たくさんあるような気がします。

しかし、どれもこれも、私は、そんなに自分は母に対しても無理を言つてこなかつた、わがままを言つてこなかつた、母も私を邪険には扱わなかつた、そういうところで、私は、表面だけの思いを振り返つて いるだけです。

それが、私の中のエネルギーのすごさに繋がつてこない。それが私の現状です。

* * * *さん、それでは、お母さんを思つてみてください。お母さんのほうに、心を向けてみてください。

異語。

お母さん、お母さん、心の中の苦しさを、私は、押し込めてきました。たくさん、の間違いを繰り返してきた私にとって、母という存在は、とても大きなものでした。その母の存在を隠れ蓑にしてきました。

母に頼つていれば大丈夫、母が私を守ってくれる、母に背けば、私の明日がない、そんな思いで、私はずつときました。

母つて何だろうかと、今、思います。私の守り神だつたんでしょうか。

そんな母に対し、私は、本当に自分をさらけ出していたのかと言えば、そうではあります。心中を押し隠しながら、母に従つてきた。そんな私を感じます。ああ、これが私の他力へと繋がる道筋でした。

他力の神々に逆らわないで、自分の思いを抑え、ただただ、守つてくださいと縋つてきたような気がします。

自分の心を自分の言葉で語ることなく、私は来たような気がします。自分が哀れでなりません。心を押し隠して、抑え込んできた自分が哀れでなりません。

異語。

* * * *さん、どうぞ、ご自分を思つて瞑想をしてください。真つ暗な、真つ暗な中で苦しみ喘いでいたあなたに間違いありません。

このことは、あなた自身が自分の心で感じなければ、納得しないでしょうが、あなたに思

いを向けた時、あなたの意識の世界の底知れぬ暗闇を感じます。お母さんを思い、瞑想をしてください。

四三、会員番号1216さんの意識

* * * * さん、心を語つてみてください。

自分の蒔いてきた種とはい、他力の中に沈んできた私です。その私を思う時、愚かな私ですが、今、ようやく、その愚かな私を少しづつでも認めて受け入れていくことができる今を感じています。

本当に自分で蒔いてきた種です。自業自得の道でした。他力の神々を求めてきた私は、自業自得の中で苦しみ続けてきました。

それを、今の肉体を通して、自分に少しずつ伝えていける時間を嬉しく思っています。

まだまだ、自分の中の他力のエネルギーを、しっかりと真正面からとらえていません。真っ黒な塊を感じるけれども、その真っ黒な塊をまだ、私は、充分にとらえ切れていないことを、

感じています。それでも、ようやく、私は、本当に愚かな自分であつたことを、感じさせていただいています。

田池留吉に向かうエネルギーの中で、そのことを今世、ようやく感じる自分でした。

異語。

* * * *さん、どうぞ、自分を見限らずに見捨てずに、トコトン自分と付き合つていってください。愚かな自分、本当に愚かな自分に、そう、トコトン付き合つていってください。

自分に真摯に生きる、誠実に生きる、自分の本当の思いにほんの僅かでも応えていける自分が感じていく、それがあなたの喜び、幸せの道です。

そうです、誰もあなたを救うことはできません。あなたは、あなたでしか救えない、それだけを、しつかりと心に留め置いて、これから肉の時間、そして、これから転生、自分の中でしつかりと自分を見ていくください。

他力の神々に心を売つてきたからこそ、あなたは、今世、この学びに繋がつたのです。言つてみれば、愚かな道を選び苦しみ続けてきたけれど、本当に間違つてきましたと、心から自分に懺悔の思いが湧いて出でてくれば、愚かな過去は、みんな喜びに変わつていきます。その道

は厳しくて険しいけれど、本当のあなた自身は、そうしていきたいと思つてているのではないでしょうか。本当の自分の思いに応えていく、それにはどうすればいいのか、取捨選択は自分にかかっています。

その現実をしつかりと自分の中とらえ、今という時を喜んでいつてください。

四四、会員番号1775さんの意識

* * * *さん、あなたのその真っ黒なエネルギー、真っ黒なあなたを、今、心で感じていってください。

心を田池留吉から逃れたい。田池留吉から逃げたい。田池留吉の中に私は、存在したくない。ああそんなことあつてたまるものか。私は素晴らしい神なるぞ。心の中をもつと見つめろ。私は素晴らしい。心の中の平和を唱えてきた。私は、素晴らしい、はい、そのように思つてまいりました。

転生の数々の中での私は、自分が崇められることに大きな喜びを感じてまいりました。

もちろん、そのような転生ばかりではございません。それはもちろんそうですが、しかし、私の中には、崇めよ、崇めよ、崇めなさい、我を見よ、その思いが、とても強いです。

私は、神なり。私は、素晴らしい神なり。そのように、自分を思つてまいりました。高く、高く掲げた己を崩していくことが、まだできません。

田池留吉の中に入ることを拒否している私がございます。

我こそ素晴らしい、そのような思いを心に抱えています。

異語。

* * * * *さん、今、あなたはあなたの自身を語りました。その意識の世界、どうでしようか、あなたは、納得できますでしようか。心に感じるでしようか。
しつかりとご自分のエネルギーを感じていってください。

たくさんのお力のエネルギーをその意識の世界に携えているあなたです。どうぞ、そのエネルギーを感じていってください。

異語。

私は、＊＊＊＊の意識でございます。はい、そうです、心の中が苦しくてなりません。大きな、大きな世界が私の世界であるのに、私は自分を、小さな、小さな枠の中に押し留めていることを感じています。ああしかし、その小さな枠の世界を、私自身、小さな枠だとは、まだ感じてはいない。大きな、大きな世界だと思つています。

心を田池留吉に向けることができないんです。私は、田池留吉に心が向かない、向けられない、そんな私がいます。これが私の現実でございます。

何度も、何度も伝えました。だけど、私のこの思いを、素直に受け入れてくれない意識の世界があることを感じます。だから、ともに崩していきたい。私は、間違つてきた。苦しい、苦しい、間違つてきた。そのことを、今世、気付きたかった、気付きたい、そのようにお伝えしています。

四五、会員番号11114さんの意識

＊＊＊＊さん、あなたの思いを語つてみてください。

この学びに繋がり嬉しく思っています。心を見て、瞑想をして、自分の間違いに自分で気付いていくことを教えていただきました。

私も、真っ暗な中で苦しみ喘いでいる意識として、今、このように、肉体を通してこの学びを知り、そして、自分の肉体をそちらの方向に使えることを、嬉しく思っています。

ああ間違ってきました。心の中の凄まじいエネルギーを感じます。私は、このエネルギーの中に自分を押し込めてきました。自分を見失つてきました。今、そのように感じています。

異語。

* * * * *さん、はい、あなたもかつては、たくさんの人を導いてきたことがございます。心を間違った方向に使つてきました。そのような過去世もたくさんあると 思います。

そんなあなたが、今世、お母さんから肉体をいただき、この学びに繋がつて、自分の間違いに気付いていく計画を立てました。

どうぞ、素晴らしい自分だと掲げる思い、そんな自分の思いをもつと見ていてください。心の中の暗闇、もつと、もつと、見ていてください。

お母さんの思いを心に感じ、そして、大きな間違いを繰り返してきた過去の時間を振り返り、今世、そして、これから転生へと、自分を繋いでいってください。淡々と、その道を歩いていってください。

今、あなたが語ったように、この学びに繋がつたことは、大きな喜びです。すべて、ご自分が計画されてきたことですけれども、その計画を可能な限り活用していってください。

それがあなたに対する優しさ、そう、自分に対する優しさです。

お母さんの温もりを、心に感じれば、自分の計画が頓挫することはない、絶対にないことを、あなた自身が証明していってください。

四六 会員番号1535さんの意識

*****さん、今のあなたの思いを語つてみてください。

長い年月、学ばせていただいています。私も、そう、長い間、学んでいます。心の中にたくさんの思いを引きずりながら、それでも、今までこの学びを自分の中から遠ざけることなく

やつてこれたことが不思議です。

たくさん他の力をやつてきました。本当にたくさんの他の道を歩いてきました。長い、長い時間です。今、私は、そのことを振り返っています。

本当に長い時間をかけて、私は、今、ようやくこの学びに集えたんですね。自分を振り返る学びに繋がったんですね。しみじみそう感じます。

欲で学んでまいりました。本当に愚かでございました。

ただ、そう思います。私の今の思いは、欲で学んできた、本当に愚かだったということです。そんな私を感じています。

* * * * さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中に凄まじいエネルギーを蓄えてきた私にとって、田池留吉に出会うことが、これほどすごいことだったとは思えませんでした。

本当に浅く考えていました。学びを浅くとらえていました。

こんなに凄まじいエネルギーを抱えてきた私だからこそ、今世、田池留吉と出会えたのですね。この学びに繋がったのですね。本当にそれを、浅く、浅くとらえていたように思います。

私としては、一生懸命に学んできたつもりです。

しかし、自分の中を、今、振り返る時間の中で、私が感じていることは、これほどまでに、自分の中のエネルギーがすごいということを、思えなかつたことです。

異語。

田池留吉、私は、この肉体をいただいたこと、それだけが喜びだったんですね。大きな間違いをしてまいりました。

自分を思えば思うほど、何も語れない私を、今感じています。

田池留吉、私は、眞実の前に何も語ることができない、そう、これが本当のところです。申し訳ございません。

四七、会員番号1537さんの意識

*****さん、お母さんに対する思いを語つてみてください。

私は、母親を嫌つてきました。母親が大嫌いでした。私は、母の姿を見て、ああ、これが私の姿なのか、そうではない、そんなはずはない、それを認めることができませんでした。

全く肉でした。母も肉なら私も肉、肉の中で、私は苦しみ続けてきました。

母の思いを心に感じることもございます。瞑想をして、お母さんの思いを感じることもございます。しかし、私の中には、そういう思いを吹き飛ばすほどの真っ黒なエネルギーが、まだしつかりと心の中に残つているのです。

お母さんを思い、田池留吉を思い瞑想をしなさい、そして、母を語れと言われました。

私は、母を語ることができません。母を見下してきた。その思いから、なぜ母親の反省なのかと…、そんな私があります。それよりも、私に、何かを授けてくれるものを探し続けてきました。

母親の中に、それがあつただなんて、まだ信じられないです。

お母さんを思いなさい。お母さんを語りなさいですか。

はい、私は、母親を語る時、自分の汚い、汚い思い、汚い、汚い意識の世界を語ることになるかと思います。

すべてを見下げてきました。我一番の世界を広げてきました。

どれだけこの心にその思いを培ってきたことか、すべて、すべて、我一番でした。

異語。

* * * *さん、どうぞ、あなたが作ってきた他力の世界を、自分で感じていってください。他力の中に本当にどっぷりのあなたを感じます。

どれだけ学びに繋がり、自分の心を見ようとも、あなたのの中は、依然として、他力一色です。この学びの言わんとするところを、あなたはご存知ですか。

自分に冷たいことを、もっと、もっと知つていってください。自分に冷たいんです。心の中の冷たさを感じていってください。

もう、すべてを捨て置いて、自分を見つめる、それしかないと思います。

おそらく、あなた自身は、ここまで思つておられないと思います。やはり、どこかに甘さがあるのでないでしょうか。しかし、このくらいの思いで、自分の中を見つめていこうとし

なければ、他力の世界を自分で崩していくことは難しいでしょう。

それだけの部厚い壁がある、私はそのように感じます。

しかし、それも、あなたの思い方ひとつで、心の決め方ひとつで、変わっていく可能性を秘めているのです。私はそれもまた感じます。

ただし、それには、先にあるように、すべてを捨て置いてということが大前提になるかと思います。それがあなたにできるかどうかは、あなた次第です。

四八、会員番号1536さんの意識

*****さん、お母さんに心を向けてみてください。

母親の思いを知らずに、私は育つてきました。母を思うと苦しいって出できます。母にすべてを牛耳られてきた自分があつたからです。

確かに、母は立派だったと思します。しかし、そのエネルギーはすごい。私は、そのエネルギーを感じてきました。

ああ、心は外に向いていました。私は自分を見ることなく、心は、いつも、いつも外に向いていました。

*****さん、あなたは、この学びに繋がり、喜んでいますか。

そうですね、よく分かりません。しかし、私は、この学びを捨て切れずにいます。おそらく、私の中は、何とか、何とかという思いがあるのでしょう。しかし、あまりにも自分が作つてきただ他力のエネルギーの壁の部厚さに、ほとんど手も足も出ない今を感じています。

母親の反省にしても、他力の反省にしても、私は、今ひとつのことです。

セミナーには集わせていただきました。心に感じるところもございます。ですが、やはり、私も他力の中にすっぽりと自分を沈めてしまつて、その中から、この学びを、田池留吉を見てきたのかなあと、今、感じています。学びに繋がつて嬉しいですか、はいと即答できないのが残念です。

私も、心の中に、真実を求めてきたはずなのに、なぜこんなところにまだ自分を押し留めているのか、これが、過去から私が広げてきた他力の呪縛というものなのか、今、そのように感じています。

＊＊＊＊さん、諦めることなく、自分を見つめていくことをしていいください。あなたも語られたように、他力の壁は確かに、厚いです。

たくさんの過去世達の思いをドーンと心に蓄えながら、あなたは、今そこにはあります。過去世達は、みんな他力の神々に心を向け、縋つてきました。それが、あなたの現実です。その中で、今、あなたができるることは、やはり、この学びで示された道筋を淡々と進めていくことだけでしょう。

肉は愚かです。肉の頭では何も分からぬんです。この学びを知り、セミナーにも集われ、ずっと今までやつてこられた事実を大切に、これから肉の時間、いかにして過ごしていくか、あなたの心に聞いてみてください。

異語。

他力のエネルギーにがんじがらめなのは、あなただけではありません。みんなその中から、今世、少しでも自分を解き放していく足がかりを見つけようと思死だし、一生懸命です。肉のあなたが、諦めたり放棄したりしては、元も子もありません。

ただ、中は必死なんだ、そう、自分に言い聞かせて、これから時間を使つていってください。

四九、会員番号1697さんの意識

*****さん、心の中のアマテラスを語りなさい。

心の中にアマテラスを奉つてきた私でございます。アマテラスを神として崇め奉つてきたこの心の中、アマテラスを崩していくことができない私がございます。大いなる神、アマテラス。私は、アマテラスにすべてを捧げてまいりました。しかし、今のこの肉は、まだ私の存在に気付いておりません。なぜならば、すべてが肉だからです。

私の中が、どれほどアマテラス一色であるのか、肉は知りません。肉は肉しか見ていない。自分の意識の世界を感じることを、まだしておりません。

アマテラスに心を売つてきた私は、今世、肉体をいただきました。

この苦しい思いを自分で解き放していくために、肉体を願い出ました。
心の中のアマテラスでございます。アマテラスを素晴らしい神として崇め奉つてきたこの

心が苦しくてなりません。どうぞ、肉よ、私の存在に気付いてください。あなたの内でアマテラスは苦しんでいます。心をもつと見ていてください。

異語。

* * * * *さん、あなたは、日常生活の中で、形を整えようとする思いが強くありませんか。すべてアマテラスの支配の中にあることを知つていってください。ひとつ、ひとつ、自分の行動を振り返る、まずはそこから始めていくください。私は、あなたを感じる時、アマテラスのエネルギーの中につづぱりと入つてしまつているあなたを感じます。アマテラスと一体化しているあなたを感じます。

あなたは、あなた自身を知らないんです。その中に埋もれているあなたは、アマテラスのエネルギーがどのようなエネルギーであるのか、まだその肉に響いていません。だから、まずは、生活の中で、自分の行動の基準となるもの、あなたがよしとしてきたこと、ひとつ、ひとつ、振り返つていってください。

それと、あなたは、アマテラスのエネルギーを心でこらえようとするのではなくて、頭でどうえようとしています。それでは、いつまで経つても分かりません。

あなたがもう少し敏感であれば、セミナー会場で、アマテラスのほうに心を向ける瞑想をした時、その肉体を通して、あなたが培ってきたアマテラスの世界が具体的に、心で感じられると思います。

いいえ、あなたは、敏感なはずです。

ただ、今は、アマテラスに逆らうことなどできないという思いがあなたの中にあるから、あなたはそのエネルギーを抑えるエネルギーのほうが優っていると思つてください。

あなたの中のアマテラスは、心から救いの手を差し伸べています。

お母さんの反省をして、お母さんを思う時、ありがとうございます、お母さん、そういう思いが出てきますか。

あなたは、お母さんに対して、とても冷たくて厳しい思いを流しているのではないでしょうか。自分の基準で、お母さんを切り捨ててきたことはございませんか。

お母さんに対する思いを、まずはしっかりと見ていくください。

あなたの内で、お母さんから流れる本当の優しさを感じなければ、アマテラスが苦しがつていることが分からぬのです。

あなたは、あなたにとても冷たくて厳しいです。なぜならば、あなたは、アマテラスそのものだからです。これは、頭では絶対に理解できません。

だから、母親の反省、毎日同じことでもいいんです。繰り返し、見ていくてください。

そのような過程を経て、あなたがアマテラスに思いを向けた時、あなたの内でアマテラスが愛しいと思えるようになればいいんです。ただそれには、自分の中に作ってきたアマテラスの世界のすごさを、実感しなければならないということです。

水のように冷たいけれど、しかし、アマテラスも温もりを求めていることを、自分の心の中で感じていけば、ともに、アマテラスとともに帰ろう、そういう思いが湧いて出てくるはずです。

そうしたとき、あなたの中のアマテラスが、とても愛しく感じられます。

そうなつて初めて、アマテラスは素直に語つてくるでしょう、間違つてまいりましたと。

この一連の作業が、いわゆる自己供養です。

あなたは、自分の中のアマテラスに本当のことを伝えたいがために、今世、生まれてきて、こうして、学びに繋がつていると、私は、感じています。と言つても、これは、私が感じていることであつて、当のあなたが、その心で感じることができなければ、どうすることもできませんが、しかし、これだけは言えます。心の中にあるアマテラスのエネルギー、それは、温もりに間違いありません。

五〇、会員番号1077さんの意識

*****さん、心を語つてみてください。

心を閉ざして生きてきた私に、母の思いが微かに届きます。はい、間違つてきました。他力の道を歩んできました。お母さんを私は遠ざけてきました。私は温もりを遠ざけてきました。私自身を遠ざけてきた。心に感じることは、そういうことです。微かに感じます。

心の中が寂しくてたまりません。お母さんを遠ざけてきた私の中は、真つ暗でした。

頭でとらえてきた学びでした。私は、頭を過信してきました。己の頭を過信してきました。反省も、頭を使つてやつてきたように思います。心で感じることの尊さが、私には、なかなか分かりませんでした。頭が動きました。肉は眞面目にやつてきました。しかし、肉の眞面目さは、頭を過信することでした。私の場合、そうでございました。

異語。

*****さん、どうぞ、自分の心を見る時間、つまり、瞑想をする時間を充分に取って、あなたの心をもつと覗いてみてください。

ご主人に対する、子供さんに対する、あなたの心をどのように使つてきましたか。形は控えめでも、エネルギーの鋭さ、つまり冷たさを、あなたは感じておられますか。ご主人に対して、子供さんに対して、もちろん、ご自分に対して、どれだけ冷たい心で接してきたか、今あなたならば、それが感じられると思います。

心の中を覗いてみて、少しずつ自分の間違いを感じている今のあなたなら、自分の出してきた思いのすごさを、これから、瞑想することによって、心で感じられると思います。どうぞ、楽しみに、それを感じていてください。

エネルギーを感じること、自分の間違ったエネルギーを感じることは、すべて喜びです。あなたが喜びだから、どんなに冷たくて、どんなに凄まじくても、それを感じられることが、もう喜びです。

そういうところが、ご自分の心に、もつとはつきりと響いてくれば、たとえば、遠いところからセミナーに集つてきたあなた自身、どれだけの思いで、そういうことを続けてこられたか、それが心に響いてきたりして、その他、色々なところから喜びが、じわじわと感じてくると思います。どうぞ、楽しんで反省をして、瞑想をして、ご家族とともに、学びを深めていく

てください。

五一、会員番号1147さんの意識

*****さん、あなたの思いを聞かせてください。

心の中に作ってきた世界を、私は、自分の中に見ています。真っ黒な、真っ黒な世界、心に感じます。この世に生まれてきて、私は、自分の中を、今、語れることが嬉しいです。

お母さん、お母さん、お母さん…。お母さんに対して、すごいエネルギーを流してきました。生まれ変わつても、私は同じでした。自分を生んでくれた母親に対して、私は、凄まじいエネルギーをぶつけてきました。

この私を、今世、生んでくださったあなたにも、私は、凄まじいエネルギーを流し続けてきました。今も、流し続けています。

私の中を見なさいと、あなたの意識が伝えてくれている、そのことを感じます。これから、私も自分の人生が開いていくと思います。

色々な事に出会い、自分の中の苦しみを感じるでしょう。お母さん、私は、自分を見ていただきます。あなたに生んでいただいたことを、心から嬉しい、ありがとうございます。本当に言えるようになるまで、この肉体を通して、自分自身を見てまいります。

* * * *さん、これから、あなたの中の思いを、どんどん感じる出来事が、周りに起こつてくるでしょう。

どうぞ、あなたのその肉体を通して、自分の中を感じていってください。これからです。心の中の他力のエネルギー、母親を何度も殺し続けてきた他力のエネルギーが、あなたのの中にも、ぎつしりと詰まっています。

どうぞ、母に使った思いを見ていくと同時に、他力の神々に向けてきた思いを感じていってください。

とは言つても、あなたはまだ若いから、まず、あなたの肉としての基盤を固めていくください。その過程の中で、あなた自身のエネルギーを、どんどん感じていけばいいのです。肉としての基盤を、ある程度整えることも、この学びをしていくためには必要です。言つてみれば、肉の自立です。なぜならば、心を見るには、健全な肉が必要だからです。肉の中に生きてきた意識にとって、肉が健全な状態でないと、やはり、この学びを継続し、ある程度の成果を

上げることは難しいというのが現実のところだと思います。その上で、どんな時も、お母さんの思いに立ち戻れるあなたであるようにしていけばいい、これが、正しい学び方だと思います。

五一 会員番号1364さんの意識

＊＊＊＊さん、心を語つてみてください。

はい、心の中の思い、どんどんエネルギーとして感じられます。何をどう語つていいのか分かりません。ただただ私は、凄まじいエネルギーを蓄えてきたことを心に感じ、それが異語となつて飛び出できます。

心の中をじっくりと掘り下げることは、まだまだ難しいです。

今は、まだまだ表面的なところで、自分のエネルギーに飲み込まれそうな私自身を感じています。ああ、これが、私がずっと培ってきた他力のエネルギーなんだ、そう思います。そのエネルギーに今まで飲み込まれてきたんだなあ、そんな感じがします。心の中を見るということを知らなかつた私は、いつも、いつもそのエネルギーを自分で追い求め、そして、結局は、

そのエネルギーの中に自分を沈めていった、そのような繰り返しが、私の過去だつた、そんな感じがします。

私は、心に感じることがございます。心に色々なものを感じます。心が、敏感なのだと思います。本当に自分をしつかりと見つめていかなければ、私の今世もまた、自分を自分で狂わせていつてしまうだろう、そう思います。

だから、今世こそ、このようにして、ようやく学びに集えたのですね。

もう、学びの終わりの頃になつて、私は、ようやく集えたのですね。でも、その時間に關係がないと思います。ようやく知つたこの学びを通して、私自身を見つめていくこと、自分の中の狂つた意識に母の温もりを伝えていくこと、私には、そうすることが、自分が一番望んできたことだつた、今、語させていただいて、そのように心に響いてきます。

* * * * さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心の中に、田池留吉を呼ぶ時に、私の中は、何とも言えない思いを

感じます。向きたい思いと向きたくない思いとが、交錯する中で、私の中は、荒れ狂っていることを感じます。

はい、……田池留吉、心をあなたに向けていきたい、今、自分の中で、その思いを感じました。向きたくない思いもあるけれど、向きたいという思いを強く感じている私がございます。自分を真っ暗な中から救い出したい、その必死な思いを信じて、田池留吉に素直に心を向けていけるようにやつていきます。

異語。

* * * * さん、あなたの事情がどのようなものか、私には分かりませんが、できるならば、セミナー会場に集まるならば、可能な限り集つてきてください。あなたにとつて、セミナー会場で瞑想をする機会を得ることが、大切なことだと感じます。

少ないチャンスだけれど、その少ない時間を、出来る限り、あなた自身のために使つていってください。セミナー会場で、真剣に、母を思い、田池留吉を思い、そして、あなた自身が広げてきた他力の世界を知つていくこと、あなたの心で知つていくこと、それが、これからあなたにとつて、大きな足がかりとなるのではないでしょうか。

自分の苦しい心をどうにかしてくださいとか、そういうのではなくて、真剣に自分と向き合うということを学んでいく、そのような機会を、一回でも多く持つていただきたい、あなたを感じ、私は、そのように思いました。

五三、会員番号1116さんの意識

＊＊＊＊さん、あなたの中の戦いのエネルギーをご存知でしようか。

いいえ、私は、自分が中が、それだけ荒れ狂っているとは、まだ自覚しておりません。心を見てきたつもりです。静かに、静かに、自分を振り返つてきたつもりです。ああでも、そう言われば、水面下に広がっている自分の意識の世界を、ほとんど知らないも同然だと、今、感じます。

戦いのエネルギーですか。そうなんですね。私も、しっかりとそのエネルギーを蓄えてきた意識なんですね。今、真っ直ぐに聞かれて、私は、何か、不意を突かれたような気がします。ああ、心を見るということは、そういうことだつたんだ、今、そのように感じています。

*****さん、どうぞ、田池留吉の目を見て、あなたの思いを語つてみてください。

異語。

田池留吉、心の中に蓄えてきたぞ、蓄えてきた。お前を殺してやるエネルギーを蓄えてきた。こんな凄まじいエネルギーをお前の日は、すべてを見通しているというのか。

私は、自分を隠してきた。戦いのエネルギーを隠してきました。形は、穏やかに繕つてきました。しかし、自分の心の世界、意識の世界の戦いのエネルギーを、田池留吉の目は、鋭く見ていました。だから、田池留吉の目を見て、私は、素直に、自分を語ることをしてきませんでした。

自分が暴露されることが、たまらなかつたです。心の中にこんなにすごいエネルギーを蓄えてきた私であることを、自分自身、認めたいけれど、認められない、そんな私が、今ござります。

異語。

＊＊＊＊さん、あなたの過去世達の思い、本当の自分に背いてきた他力のエネルギーの凄まじさ、とても、とても、今世だけでは、すべてを見ていくことはできないと思います。しかし、私は、あなたの中の戦いのエネルギーに、今、思いを向けさせていただきました。

これから、あなたの中を、瞑想をする中で見ていてください。

心の底の底から、あなたのドス黒いエネルギーが、出てくると思います。肉のあなたに響いてくるのは、少し難しいかもしませんが、意識の世界に、少しだけ刺激を与えていただきました。

どうぞ、しつかりとお母さんを思い、田池留吉を思い、瞑想をしていてください。

時間の許す限り、あなたを振り返り、本当にあなたの意識の世界を思うことを、やつていってください。

五四、会員番号1361さんの意識

＊＊＊＊さん、今のあなたの思いを語つてみてください。

私も長い間、学ばせていただいています。本当に長い間、学ばせていただいています。これが自分に対する優しさなのか、私は、今、自分を振り返り、そう感じています。

お母さん、ありがとう。私を生んでくださったからこそ、この学びに繋がることができました。肉体を持つたからこそ、この学びに繋がることができました。肉はどんなに怠惰でも、私は、それがとても嬉しいです。肉の思いは、まだまだ、四方八方に散っているという感じですが、その肉に対して、私は嬉しい、そう伝えています。

* * * * *さん、どうでしようか。あなたの中の思いを、少し語つていただきました。この思いを、あなたは信じることができますか。

素直で一生懸命なあなた自身を信じて、歩みが鈍いながらも、この学びを、しつかりとしていつてください。

日常生活の中で、喜んで心を見ていつてください。

どんなに愚かなあなたであっても、どんなに凄まじいエネルギーを出しているあなたであっても、中の思いとともに歩みを進めていけること、それが、肉のあなたにとつて、一番の喜びだと思います。

異語。

＊＊＊＊さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、はい、申し訳ございません。自分に自分が与えた時間です。自分を振り返り、本当の自分の思いに、少しでも近づいていけるように、これから時を刻みたいと思います。他力の中で存在してきた私に、これからの一五〇年という時間が用意されているということを、今、嬉しく思います。心の中の優しさ、温もり、私も、ぜひ、一五〇年後に、自分の中でしっかりと確認していきたい、今、そのように感じます。

五五、会員番号1443さんの意識

*****さん、思いを語つてみてください。

心を語りなさいと言われて、今、そうですね、何を語ろうかと思つています。自分の中を、そつくりそのまま、全部、全部、間違つてきたと語りたいけれど、私の中には、まだまだ自分を正しいとする思いが残つていると思います。

ですが、私の中も、学びの年月を経て、少しづつですが、変わつてきているのを感じます。心が楽になりました。心が少しづつ軽くなつてきたのは事実です。

夫に対して、子供に対して、そして、周りの人達に対して、私の流す波動は、本当にすごかつたと、今、少し感じさせていただいています。

それを思う時、みんなにごめんねって素直に言える私があるのが、嬉しいです。以前は違いました。こんな小さなことに、喜びを見出せる私ではありませんでした。でも、こんな小さなことではありませんでした。それが、とても、大切なことだつた。今はそう感じます。

心を見るたくさんの機会を得てきたことが、私には嬉しいです。

立派な自分、素晴らしい自分を崩していくために、心を見続けています。

自分の思うようにいかなかつたことがあればあるほど、己が高かつたんだ、そびえ立つ自分があつたんだ、そうやつて、自分を振り返っています。

今は、ただ、こうして、この学びに繋がつたことを、嬉しく思います。

凄まじいエネルギーの中を生き続けてきた私の過去、今世も色々ありましたが、今世ほど幸せな時間はないように、今、思います。

* * * *さん、よかつたですね。立派な自分、素晴らしい自分なんて必要なかつたことを、どうぞ、もっと、もっと、心に感じていつてください。
もっと、もっと、優しくなつていつてください。

そうなつていけば、今世の喜び、幸せもそうですが、それとは比較にならないほどの、あなたの一五〇年後が待つていています。

しかし、これは、これからあなた次第です。

心を落とすのもあなたなら、心を羽ばたかせるのも、あなたです。

異語。

*****さん、宇宙を思つてみてください。

異語。

はい、宇宙に広がっている私達の仲間に、心を向ける時、とても苦しい思いを感じます。あ
でも、今、心を宇宙に向けた時、ああ、私は、間違つてきた、私達は間違つてきたという思
いを感じます。

お母さんに心を向けていきましょう、そうやつて、私の仲間に心を向けることをやつてい
きます。

肉の私は、もうよかつたです。心を宇宙に向けた時、もっと、もっと、私が心を向けてい
かなければならぬことが分かりました。

ああ、私の中の宇宙、はい、心を向けてくれることを待つていた、そう今、感じます。田池留吉、
アルバート、ありがとうございます。

真つ黒な宇宙を心に広げてきた私に、思いを向けさせていただきました。

五六、会員番号1459さんの意識

*****さん、あなたの心を語つてみてください。

心の苦しさを奥に押し込んで、私は、自分を偽つて生きてまいりました。そのことがとても苦しいです。自分の中の苦しみと真向かいになれない自分を感じる時、それが私には一番辛いです。

反省をして、瞑想を続けてきましたが、自分の中に、もう一步足を踏み込めない私自身を、今、感じています。

この学びは、確かに自分に色々な気付きを与えてくれました。

セミナーに集い、自分のエネルギーを感じさせていただいた時もございました。しかし、私は、やはり、この肉、肉の生活、肉の家族、肉としての自分の思いを、どうしても心から離すことができずにいるのが、苦しいのです。どれだけ自分のエネルギーを感じようが、反省と瞑想を繰り返しても、自分の本当に思う通りに歩めないということが、何とも歯がゆい今を感じます。

*****さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

*****の意識でございます。田池留吉、心の底から田池留吉に出会いたかつた。本当の私、お母さんの温もりに出会いたかつた。私も、今、感じます。どれだけ肉にまみれて、どれだけ心を落としても、私は私に出会いたい。だから、今世、このように生まれてきました。

学びを知つたけれど、学んでいく環境は厳しく、学びを遠くに感じたことも、度々ありました。しかし、私は、どうしても、この学びから離れることはできません。心の中の苦しさが突き上がつてくるからです。誤魔化しても、押し込めて、心の中のエネルギーは突き上がつてきます。

田池留吉、ああ、もつと、もつと、自分を軽く解き放していきたいです。エネルギーのすじさを感じます。ああ、私は、温もりに帰りたかつた思いを、今、感じさせていただいています。

異語。

*****さん、あなたの中の思いを聞いて、どうでしょうか。

人には、それぞれの歩み方があると思います。あなたには、もちろん、肉の生活があるから、この学び一筋には…という今のあなたの現実があると思います。それでも、あなたの中の思いを、どうぞ、しっかりと、心で確認していってください。

あなたも、また強い決意を持って、この世に生まれ出てこられたことを、私は感じます。そして、これから転生の中で、自分の計画があることもあなたの意識は、言つてきていると思います。

焦らずに、一步、二歩、地道な作業かもしませんが、反省と瞑想を繰り返していくください。中の必死な思い、どうぞ、心にしっかりと受けていってください。

異語。

お母さん、申し訳ございません。こんな私に肉体をいただいたことを、今、少しずつですが、嬉しく思える自分があります。

学びにもう一步足を踏み出せないのは、肉をつかんでいるからだと、自分で思っていますが、私の中の思いは、とても必死なことを、今、感じます。肉をつかんでいる思いが苦しいと私に

伝えてきます。

しかし、私は、この肉の生活を放棄するわけにはいきません。

この中で、私自身を見つめる、エネルギーを感じていく、私は、苦しみながらも迷いながらも、必死で自分を見つめていこうとしています。

この学びしかないという思いが、私の中には、しっかりとあります。

生活の安泰、金を稼ぐこと、家族の喜びと幸せ、自分の欲を満たすこと、どれもこれも、本当はどうでもいいようなことですが、私は、その中において、自分に計画してきた道筋を歩いてまいります。

そびえ立つてきた自分を見つめ、そのエネルギーのすごさを見つめ、これからもやつていいくと思います。心を、田池留吉に向けること、本当の自分に向けること、それを自分の中で確認するために、私は、この申し込みをさせていただきました。肉の私が思っているよりも、中は、必死だし、真剣だし、真面目だと思います。

お母さん、この学びに繋がって、自分を少しでも見つめることができる今を、喜んでいきます。

母の温もりによって、私が今、ここにあることを、心の底から感じられる日がくるまで、自分を見つめてまいります。

五七、会員番号1441さんの意識

*****さん、あなたの思いを語つてみてください。

小さい頃より、学びを感じてきました。私の意識の世界は、この学びに触れてきました。そういう機会を持つてきました。今は、肉も成長していく、色々な思いを感じます。お母さんに素直でなかつたなあと、今、私は、自分を振り返っています。

小さな、小さな頃、お母さんに素直だった私を思うと、今世、ほんの少し時間を重ねてただけで、もうこんなに素直でない自分が、たくさん感じられます。これからも、私は、自分の生きていく時間の中で、様々な人と出会い、色々な出来事に遭遇して、自分のすごいエネルギーを感じていくのでしよう。

今、自分が学んできた時間の長さを振り返り、お母さん、大きくなるということは、こういうことだつたんですね、そんな私を、今、感じています。

異語。

* * * * *さん、学びをしていく上で、恵まれた環境にありますね。たくさんのこと学んでいくください。お父さんも、お母さんも、この学びに繋がっていますから、みんながそれぞれ自分の思いを、素直に語り合えればいいんです。自分を修正するために、そのような仲間があなたの周りにはいます。どうぞ、そのことを、大切にしていくください。

あなたのお父さんやお母さんであって、そうではない、そういうことも、これからあなたなら、心で感じていくことができるかと思います。色々な可能性を秘めて、あなたの時間が、これから展開されていきます。

心を押し込めるのではなく、心を解き放つ方向に、あなたの時間を活用していってください。

五八、会員番号1725さんの意識

* * * * *さん、あなたの思いを聞かせてください。

肉、肉、肉の中に、ずっと存在してきました。今も、私は肉です。肉の中になり、この学

びに繋がっていると思つています。心を見ること、田池留吉に心を合わせること、お母さんの反省、そのような流れの中で、私は、自分を振り返る今という時を、本当にもつたいなく過ごしてきたなあ、そのように思つていています。凄まじいエネルギーを蓄えてきた。私も例外ではありません。すべてを牛耳ってきた、すべてを支配してきました。

アマテラスの心そのもので生きてきた私に、田池留吉は、母の反省をしなさいと伝えてくれました。心の中が、煮えくり返りました。私は、正しく生きてきた、私は間違っていない、いつも、いつも、そのように、歯向かってきました。どこがどんなに正しいのか、今思えば、本当に滑稽な私があります。何年も、何年も学ばせていただいた今、本当に、自分の中が素直でなかつたと思います。これが、ずっと他力の中に生き続けてきた私の現実です。

素直でなかつた。田池留吉、申し訳ございません。今、私は、このように語らせていただいている。長く学ばせていただいたけれど、本当にお粗末な私を感じ、自分ながら、情けない思いも出できます。しかし、まだまだ、今世、時間の許す限り、自分を見つめていこうと思います。母に向けて出してきたエネルギーのすごさ、じっくりと瞑想する中で、自分と向き合つていこう、今、語らせていただき、改めて、そのように思いました。

＊＊＊＊さん、田池留吉に対して歯向かってきたエネルギーのすごさ、あなたは素直でなかつたと語られました。そうですね、素直なようで素直でなかつたあなたの意識の世界が、心の奥底に、大きく、大きく、広がっています。どうぞ、素直とはどういうことか、自分に訊ね、そして、瞑想をする時間を持つていつてください。

肉のことは程々に、ただ、そこにこだわるあなたの思いを、もつと深く見つめていつてください。そこにあなたのエネルギーが感じられると思います。素直なゼロ歳の時のあなたの思いに立ち戻り、どうぞ、これから的时间、過ごしていつてください。

五九、会員番号1395さんの意識

＊＊＊＊さん、そうですね、あなたはとても敏感です。しかし、端的に言えば、あなたはあなたに冷たいんです。素直になつていつてください。敏感な中を、もつと優しく見つめていくつてください。

では、あなたのその敏感な意識の世界に思いを向けてみましょう。

異語。

私は、＊＊＊＊の意識でございます。心の中に培つてきた他力の神々に對する思いは、とても、すごいものがござります。

田池留吉、何する者ぞ。なぜ、今、私は、田池留吉の前にこのようにして、心を語らねばならないのだ。こんなに苦しいではないか。田池留吉の目を見て瞑想することなどしてはならぬ。真つ暗な、真つ暗な世界を、お前は、まだまだ知らない。心を向けるな、田池留吉に心を向けるな、向けるでない。お前を破滅させてやるぞ。

今、私の中の他力のエネルギーの思いを聞かせていただきました。心を向けるな、心を向けるな、そのように語つっていました。私は、どうすればいいのでしょうか。

このように私に伝えてくる意識達がござります。恐怖でございました。狂うのではないか、そんな恐怖を抱えながら、それでも、私は、自分の中のエネルギーが、自然に出ていってします。田池留吉の姿を見ると、目を見ると、自分の中からエネルギーが飛び出していく、そんな体験を、セミナー会場でさせていただいています。

私は私に冷たい。そのところが私には、よく分かりません。このようにエネルギーを感じているけれども、今ひとつ、そこから踏み出せないのは、そういうことだつたのでしょうか。

異語。

* * * * * さん、あなたの現実を、しつかりと心で知つてください。

破滅させてやるぞと脅してくるのもあなた自身です。あなたなんです。あなたがあなたに伝えている思い、その思いを心に感じて、あなたは、恐怖する思いが広がつていています。そうではありません。確かに、あなたの中は狂っています。それは、あなたの中が、母の温もりを忘れ去つた状態だからです。お母さんの温もりを思い出す、お母さんの温もりに少しでも触れていけば、その恐怖の思いは、たちどころに小さくなり、そして、消えていきます。自分に自分が優しくなるということは、頭では理解できません。自分に優しくしようと/or>ても、頭、つまり肉ではできないのです。

今、狂い続けてきたあなたの過去すべてが、一斉に、声を上げていると思つてください。それを承知で、あなたは、この学びに繋がりました。学びに繋がり、セミナー会場に来ればどうなるのか、あなたは、分かつていたはずです。他力のエネルギーはすごいけれど、その工ネ

ルギーがあればこそ、自分を真実の道へ繋ぐことができるのです。そのところを、あなた自身、しつかりと、お勉強なさつてください。

難しいことは要りません。お母さんに使つてきた思いを、繰り返し確認し、そして、母を思う瞑想をする、ただそれだけです。

その作業は、地道な作業でしよう。肉では、こんなことをして、いつたいどうなるのかと思うかもしれません。しかし、その作業を重ねていけば、必ず、自分の中から、悲痛なる叫びが聞こえきます。それは、脅しなどというそんな低次元のものではなく、そんなものをはるかに超えた心の叫びです。そこに行き着くまで、お母さんの反省を繰り返し、狂った自分の意識に思いを向けていてください。

自分の心の叫びを聞く、これこそ自分に優しいということなのです。

六〇、会員番号1485さんの意識

*****さん、あなたは、この学び一筋でしょうか。

はい、私は、学び一筋とは言えないと思います。ただ、自分の中の暗さ、苦しさ、間違つてきしたこと、それを感じます。しかし、なかなか、学び一筋にはなれないです。ああそうですね、そこに私のポイントがあつたんですね。学び一筋に思いを向けていく、それほど、私は、まだまだこの学びにエネルギーを集中させているわけではないことを、今、感じさせていただきました。ああこれが、肉の思いが強いということです。

肉のことを整えて、そして、自分の意識の世界を思う、そうですね。これが私の足踏み状態の原因でございました。

異語。

*****さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、お母さん、心の中に、私は母を求めています。もつと、もつと、真剣に自分と向かい合いたいと、心の中から突き上がつてくるのを感じます。田池留吉、申し訳ございませ

ん。この思いに、素直に従つてこなかつた私を感じます。

はい、そうでした。私の中は、もつと、もつと、自分を見つめてくれ、もつと、もつと、田池留吉のほうに思いを向けて時間を過ごしていくれ、そのように、伝えてくれています。申し訳ございません。

異語。

＊＊＊＊さん、あなたの中の思いを、少し語させていただきました。

どうぞ、あなたももう、肉のことは、程々にして、せつかくこの学びに繋がつたのですから、もう少し、心を向けていつてください。

なぜ、今、自分が肉体を持つて、ここに存在しているのか、しつかりと問い合わせながら、一日、一日を送つていく、そういう意気込みというか、そういう思いでないと、なかなか、この学びを遂行していくことは難しいです。あなたの肉の年齢からすれば、もうそうしていかなければならぬのではないでしようか。

これは、あなたに限つたことではありませんが、学びに繋がつたことがどういうことなのか、それを自分の心で本当に知るまでに至つていらない人が多いのが現状です。結局は、肉の次元で、

学びを知つたことを喜んでいる、だから、喜びもそこそこというところに留まつてしまします。学び一筋、この言葉の重み、あなたに響いているでしょうか。あなたの中の思いは知っています。だから、あなたは、今世、生まれてきました。そういうことが、肉にまで響いてくれば、この学びに対するあなたの取り組み方は、変わつてくると思います。

六一、会員番号1011さんの意識

* * * *さん、あなたの心を語つてみてください。

田池留吉、申し訳ございません。自分の現実を感じます。学びに対する現実を感じます。今私の場を感じます。瞑想をすると、それが、心に響いてきます。私は、何を学んできたのだろうかと思います。

一生懸命にやってきたけれど、心の中の思いは、あまり変わつていない、そのような感じがしています。自分に甘く、甘くきた、そんな感じです。

お母さんの反省をして、瞑想をして、お母さんを思つて嬉しいと思つたこともあります。そ

う、あります。だけど、心の底に、母を許せない思いが渦巻いているのを感じます。母を許せない、私の中に母に対する思い、許せない思いが、しっかりと残っていることを、もう私は、自分の中で見ていかなければなりません。

こんなに母を憎み、こんなに母を恨み、すべてを呪い恨んできた自分の意識の世界を、私はしつかりと見つめていきたいです。

自分を誤魔化すことはできないことを、今、感じさせていただいています。

どんなに取り繕つても、どんなにいい格好をしても、自分の現実は現実です。私は、嬉しいです、私は、よかったです、一瞬は思います。その時は、本当にそのように思うんです。でも、それは、すべて肉でございました。肉の中から出ていない幸せと喜び、それを、もう、私は、認めざるを得ない、私の今です。

異語。

* * * *さん、自分の中をさらけ出してください。もっと、自分の中をさらけ出していつてください。心を落とさず、心を小さくせず、しつかりと自分のこれから先を見つめていってください。

過去のあなたは、すべて、ブラックです。すべて、間違つてきました。

このことがお分かりでしようか。何もかもみんなブラックだつたのです。母を恨み、母を憎んできた意識に、良いも悪いもありません。すべてが間違い、すべてがブラック、自分の心がそこに行き着くまで、自分を見つめ、心をさらけ出していつてください。狂い続けてきたあなた自身を感じ、これから時間にあるあなたを、しつかりと思う毎日を過ごしていつてください。

六一、会員番号1262さんの意識

*****さん、どうぞ、あなたの頭を外してください。頭を動かすな、頭を回すなと言つても、今のあなたには難しいかもしませんが、頭を回している限り、心の世界、あなた自身を感じることはできません。

少しは、感じます。心に響いてくる世界もあります。しかし、所詮は肉です。頭を動かしている限り、土台は、もちろん肉です。そのことを、しっかりと、今、心に留め置いてください。では、田池留吉のほうに、ともに心を向けてみましょう。

異語。

田池留吉、心の中の苦しさをまだまだ、私は吐き出しません。しつかりと、しつかりと自分をさらけ出しているわけではございません。

心が苦しいです。荒れ狂ってきた自分の中のエネルギーをしつかりと、私自身をしつかりと抱きしめてやりたいけれど、私は、まだまだそのエネルギーの中に埋もれています。そのエネルギーに飲み込まれる恐怖を感じています。

私も自分に冷たいです。どれだけ私自身を救いたかったか。そのために、今世、このように生まれてきたけれど、私は、私を救うことができない今を感じます。

ああすべてが私でございました。人どころではありませんでした。

私の中は暗闇です。ブラックのエネルギーを抱えてきた私を、私自身どうすることもできなかつた、それが私の過去でございます。

田池留吉、まだまだ、心を語ることができないけれど、ほんの少し、心を語らせていただきました。どこに私の喜びがあるのか、今、このような状態です。

異語。

* * * * *さん、これがあなたの現実です。しつかりと自分の現実を見据えながら、心を見つめていくください。

お母さんに生んでいただいたことを、本当に心からありがとうございますか。
言えないと思います。

お母さん、ありがとうございます、生まれてきて嬉しいです、この思いを心の中に広げていくには、あなたには、まだまだ自分の思いを、しつかりと自分の中で見つめていかなければなりません。
学びを甘く見ないでください。しつかりと、自分を見つめることをやつていてください。
今世の時間、残された時間、しつかりと見つめていくください。自分を見つめていくんです。
自分のエネルギーを見つめていくんです。己の偉いあなたです。頭では何も分からぬことがあります。
分かつてない、あなたの今を感じます。

厳しいかもせんが、現実をしつかりと見つめていくこと、そこから、まず始めていくください。

六三、会員番号1594さんの意識

*****さん、他力の反省が進んでいません。今、あなたの中の他力の神々に思いを語つていただきます。どうぞ、思いを向けてみてください。

よくぞ、よくぞ言ってくれた。我ら苦しい意識、すべてを代表して、今、お前がそこにいる。我らを代表して、お前がいる。そのことを、どれだけ心に感じているか。お前は冷たい。自分に対して冷たい。私達の苦しみを、心から感じてくれ。母の反省をしてくれ。母に使つた思いがあるだろう。心の中の苦しさ、もつと、もつと身近に感じてくれ。間違つてきたことを認めてくれ。どれだけ他力の神々に縋つてこようが、そのパワーを心に集めようが、我らは苦しかった。そういうことを心の中に、もつと、もつと感じていってくれ。

他力のエネルギーの凄まじさを、これから心に感じさせてやる。すごいエネルギーを培つてきたぞ。すべてを破壊してきた。お前の肉体細胞などぶつ飛ばすエネルギーだ。そうだ、お前の肉体細胞だけではない。周りにすごいエネルギーを流しているお前を感じろ。

もつと、もつと優しくなつてくれ。上から我らを見るな。お前も同じじゃないか。そう、そのために、今、その肉体を持つてゐるのではないか。心の苦しさを感じるために、お前の目が

あり、耳があり、すべてがある。そういうことを、もつと、知ってくれ。

異語。

*****さん、どれだけあなた自身を語つても、今のあなたは、これを理解することは難しいと思います。ですが、どうぞ、諦めずに放棄せずに、あなたの肉の時間を全とうしていてください。肉は、ただ、心を見るためにあります。その思いを心に感じれば、今ここで語つたあなたの中の思い、痛烈に響いてくると思います。

他力の壁は、確かに厚いです。だから、今世だけではなく、来世も、その次も転生が続いていくのだと思います。苦しい中を、どうぞ、心を繋ぐことを忘れないでください。そのための今世です。何か足がかりを自分の中で、つかんでいくてください。必死になつて生まれてきたあなたを感じていけば、もう、自分を見つめるしかない、そんな思いを、肉のあなたも感じ、できる限り、やれるだけのことはやつてみよう、真摯に誠実に、自分と向き合っていくのではないでしようか。

自分が生きるか死ぬかの瀬戸際、決して、これは大げさな表現ではないことを、あなたに伝えておきます。

六四、会員番号1565さんの意識

＊＊＊＊さん、あなたの思いを語つてみてください。

己が偉かつた。本当に己が偉かつたです。今も、凄まじいエネルギーを流していると思います。私は、この時期にきて、ようやく、その己の偉さの片鱗を感じさせていただいています。すべてをさらけ出したいと思いました。心の中に詰まっているエネルギーは、すべて間違つてきたことをさらけ出したいと思いました。

心を見てきて、私は、本当に自分の愚かさが分かつていなかつた、今、そのように感じます。自分で、自分が培ってきたエネルギーのすごさを感じています。すべて私でございます。した。主人や子供は、それを伝えてくれていました。それが私には、分かつていいようで分からなかつた。どれだけの愛の中にあつたのか、私自身、この手の中から失くしてみて、ようやく気付いているお粗末さでございます。

心を見ることが難しいと痛感しています。素直でなかつたんですね。ポイントを外した学

び方をしてきた、今は、それを痛切に感じています。

異語。

＊＊＊＊さん、たくさんのお心を見る機会を得てこられました。そうですね、本当に素晴らしい環境の中に、あなたはあつたと思います。

もちろん、これからも、あなたは素晴らしい環境を用意しています。その中で、しつかりとやつていてください。

異語で、どんどんあなたの思いを語つていってください。異語は、頭を回さずに出てくる、あなたの素直な思いです。

お母さんに対する使つてきた心、ご主人に対する使つてきた心、子供さんに対する使つてきた心、すべて、あなたの「偉いエネルギー」によつて、見えなくしてきました。みんな、みんな、あなたのすごさに気付いてください、そのように伝えてくれていたはずです。

たくさんの学びの時間を経てきたあなたです。学びのポイントは外れていたかもしれません、が、その膨大な時間は、決してあなたにとつて無駄にはならないと思います。なぜならば、あなたは、自分はポイントの外した学び方をしてきたことに、気付いているからです。

どうぞ、残された肉の時間、絶えず自分を見つめ、自分を振り返り、自分と対話していく、そのような時間に使つていってください。

* * * *さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、はい、本当に申し訳ございません。心をしっかりと見つめてまいります。今まで、自分が培ってきたエネルギーのすごさを、本当に甘くとらえてまいりました。田池留吉との出会いを、どれだけ軽く見てきたことか。私は、そのように、今、感じさせていただいています。

田池留吉を見下してきた自分を、もっと、もっと、見つめてまいります。

ああ、お母さん、申し訳ございません。母に対してすごいエネルギーを流してきました。母の意識に逆らってきた私を感じます。はい、心を、もっと、もっと見つめてまいります。

六五、会員番号1463さんの意識

*****さん、あなたの今を語つてみてください。

今は、肉的には何もありません。あれだけ苦しんできたのに、昔の私が嘘みたいで。今、何が幸せかと言えば、こうして瞑想をして、自分を振り返る時間があること、そう言える私があるのが、今、一番幸せです。

しかし、この肉は、欲いっぱいです。自分の中を信じることをしていません。肉で何とか、何とかという思いが、とても強いのです。

今、自分が幸せだと感じている中の私のことを、もう少し信じてくれればいいのですけれど、肉は、本当に愚かですね。

いつも、私は、あなたに伝えていています。

お母さんに使つてきた心を振り返り、あなたを見ていくんですよ。ご主人に優しくしてください。ご主人をどのように思つていますか。

それが、あなたのとりあえずのバロメーターだと、私は、いつも、あなたに伝えていています。自分を信じていつてくださいと、私は、あなたに伝えていています。

肉のあなたは、本当に愚かです。たくさんのこと、もう学んできたではないですか。これから的时间、その学んできることを、じっくりと自分の中を見つめ直してください。本当に、たくさんのこと、学んできた、そんなあなたが、今、一番幸せだ、そのように思えるまで、じっくりと、自分を見つめていてください。

他力のエネルギーを欲してきた私達です。今、あなたの肉を通して、私達は、そのことを学ばせていただいています。愚かな肉ですが、肉がなければ、私達は、永遠に、地獄の奥底に沈んだままです。

あなたの肉を通して、私達は学んでいることを、あなた、もう少し、感じていてください。

異語。

* * * * *さん、私はあなた、あなたは私、ひとつ、という意味が、少しあなたの中で感じられるでしょうか。

あなたの中のたくさんの苦しいエネルギー、間違った意識達、今、必死に、あなたの肉を通して、学んでいます。

どうぞ、肉のあなた、しっかりと、そのことに気付いていてください。

あなたの中は、必死です。肉は、それに従うだけではないでしようか。

ご主人とともに、学びを進めていくこと、それが、あなたのこれからするべきことです。たくさんのお亡きを抱えてきたあなた、今世、ようやく、初めて、そのことを知ったあなた、どうぞ、欲の思いを見つめ、もう少し、自分の中を信じる方向に、心を見ていくください。

六六、会員番号1793さんの意識

* * * *さん、あなたの思いを語つてみてください。

心を見る目をやつていなくていい私には、心を語れと言われても、何を語ればいいのか分かりません。自分の中を見つめる、自分のエネルギーを感じていく、そういう学びに、私は、なぜかしら、今世繋がりました。自分が望んできたことだと言われば、そのような気がします。しかし、私は、肉です。肉の私の生活が何より大切です。そんな中で、心を見るということが、とても難しい。難しいというよりも、地道な作業のような気がします。心を見て、私は幸せになれるのだろうか、心を見てどうなるのだろうか、そんな思いが先行していきます。で

すが、あなたの意識ですのところを読むと、それは本当に納得するんです。まるで、自分の中
が語つているような、そんな気がしてなりません。

* * * * *さん、お母さんに對して、これはどなたも同じですが、凄まじい心を使つてきた
のです。半端な思いではありません。どうぞ、あなたも、あなたのお母さんに対して出してき
た思いを、しつかりと見ていてください。そうです、すごいエネルギーを流してきたはずです。
自分を偽らないでください。この意味が、今は、よく分からなくとも、お母さんに使つて
きた思いを見ていくこと、お母さんにどんな思いで接してきたか、その都度の心を、まずは見
ていてください。

私達は、今の肉体を半端な思いで持つてきたのではないことを、あなた自身の心で感じて
いつてほしいのです。

あなたは、何をするために生まれてきたのですか。
あなたの人生って、いったい何なのでしょうか。
もう少し、しつかりと、自分を見つめていてください。

* * * * *さん、田池留吉に心を向けてみてください。

田池留吉、心を向けることを拒否している私があります。

お前は、汚くない。お前の心を見るな、見るな。そうやって、私の中を遮る私自身を感じます。自分の幸せのために、すべてを求めてきたこの心の中のエネルギー、他力のエネルギー、他力の神々に縋つてきた、他力の神々に頼つてきた、そんな私を、まだまだ私は、しつかりと心に隠しています。

自分が苦しいことすら分かりません。

なぜなのか。何も分からぬ状態です。他力の中にすっぽり、そう、その通りです。この中から抜け出すのには、まず、私が行動を起こさなければならないのです。田池留吉は、そのように伝えてくれているような気がします。田池留吉の目を見ると、そういうふうに伝わってきます。

あなたは、あなたの心を見つめていきなさい。あなたを見つめていくんです。あなたの心を見つめていきなさい。そのように伝わってきます。

六七、会員番号1577さんの意識

あなたの学びに対する動機を見ていくください。

学びを真剣にとらえていないです。学びの動機が間違っています。私は田池留吉にパワーを求めてきました。自分の中の素晴らしいパワーを田池留吉によって引き出してほしかったんです。

田池留吉、あなたはすごいパワーの持ち主ですね。私は、あなたをそのように見ていました。心を見ることをしておりません。心に何かを感じ、それが肉体を通して自分の目の前に現象として現れるけれど、それが自分の意識の世界からの伝言だとは思っていません。いいえ、思えないのです。

* * * *さん、そうですね、あなたの学びの動機が違っていること、学びに対する思いが違っていること、あなたが語った通りです。

今の状態では、心に何を感じても苦しいだけです。そこから、自分をどうすることもでき

ないのです。どうぞ、ご自分と真向かいになつていってください。この学びに対する思いを変えていってください。

異語。

* * * * *さん、一言で言うならば、あなたはあなたに冷たい。自分に冷たい。ただこんなことを感じている、あんなことを感じている、それがあなたの中の悲痛なる心の叫びだということに、あなたは思いが至つていません。冷たいからです。お母さんの反省をしてきましたか。お母さんに使つてきた思いをひとつ、ひとつ、思い出し、見てきましたか。

あなたの心は、以前、あなたが心を向けてきたところに、まだまだ向いています。しっかりとそちらのほうに向いています。

形はセミナーに集い、この学びをと、やつておられるかもしませんが、あなたの意識は、そちらのほうに向いているのです。

自分を見つめ直していくしかありません。それは、あなたがやつていくしかないのです。途轍もなく、己の偉いあなたがあります。己が偉くて己に冷たい、そんなあなたの今です。

何をどうすればいいのか、あなたの許には、たくさんの学ぶ材料があり、本当にやつてい

こうとすれば、色々な資料があると思います。一から始めてください。

異語。

* * * *さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池です。 * * * *さん、どうぞ、お母さんの思いをあなた自身の心で知つていってください。お母さんに使つてきた心を、ひとつ、ひとつ、見ていくてください。田池留吉に歯向かつているあなたがあるでしょう。お母さんに歯向かつってきたあなたがあるでしょう。それを見していくのは、あなた自身です。

私は、あなたに、もうすでに伝えていきます。

あなたは、あなたの心を見ること、お母さんの反省をすること、素直になることです。私、

田池留吉を見くびらないでください。

六八、会員番号1319さんの意識

*****さん、あなたは、今、幸せですか。

私は、あまり幸せではないと思います。いいえ、全然幸せではないと思います。自分の中が苦しいんです。苦しい、苦しい、苦しい、苦しいって、毎日、毎日、自分の中が叫んでいます。苦しい私を置き去りにして、私は、幸せなはずはありません。肉の私は、早く何とかしたい、この中から、何とか自分を救い出したい、そんな焦りの思いを出しています。

自分が苦しいって言っているのに、私はそんな私を置いてきぼりにしているんです。それが冷たいということが、私には、まだよく分かりません。私なのに、私なのに、しかし、私は私だとは思っていないのかもしれません。だから、こんなに平気で自分の中の苦しさを、足蹴にしているんだと、私は、今、思います。

*****さん、あなたの心は敏感です。色々なものを感じているでしょう。だから、もつと真剣にお母さんの反省をしていくください。

お母さんに生んでいただいたことを、どのように思つて いますか。

お母さんに育てて いたいたことを、どのように思つて いますか。

そして、あなたは、この学びに繋がつて どうで しょうか。あなたは幸せではないと言いま
した。なぜ、幸せで ないと 言えるので しょうか。

学びに繋がつて いるんですよ。学びを肉で 知つたんですよ。そんなあなたが、なぜ、あなたは 幸せで ないと言えるのですか。そのところから、もう少し、自分自身を振り返つて みてく
ださい。自分を 大切にして いつて ください。今の自分の時間を 大切にして いつて ください。

あなた、このまま死んで いつて いいので しょうか、この本を、あなたは、もう読まれましたか。
どうぞ、手に取つて、真剣に 読んで ください。

そして、あなた自身に聞いて いつて ください。瞑想も、反省も、すべて、あなたとあなた
の中で行う作業です。

どうぞ、もつと、言つなれば、あなたの切なる思いと 真向かいになつて いつて ください。

異語。

六九、会員番号1618さんの意識

* * * * *さん、あなたは、セミナーに参加されて、どれだけ自分のエネルギーを、その肉体を通して感じてきましたか。現象の時間に参加されてどうでしたでしょうか。

学びは古くても、その体験があまりないのでないでしょうか。

古くから学んでいる人達は、セミナー会場で、思う存分自分のエネルギーを出すという機会に恵まれてきました。言つてみれば、それが学びの時間の長い人達の幸せな点だつたのです。肉の事情があると思います。来たくても、セミナー参加が思うようにはできなかつたということもあるでしょう。

しかし、そこで感じた人ならば分かります。みんな、必死なんです。一生懸命なんです。自分と真向かいになることは難しいと分かりつつ、セミナーの現象の時間を大切に学んでこられたと思います。

そのような二泊三日の中セミナーが、数にしてみれば、三百回以上開催されてきたことは、あなたもご存知だと思います。それでも、現実は、このコーナーでも、お分かりのように、なかなかです。

この現実を踏まえて、さて、あなたの学びに対する姿勢はどうしたことでしょう。

しかし、だからといって、あなたは、あなたの学びを捨てることはできません。あなたが、そこに、今、肉体を持つていて以上、そして、この学びを肉で知った以上、あなたは、この学びをしていかなければならぬのです。

なぜならば、あなたも、自分を変えるために、自分に本当のことを伝えたいために、今世、生まれてきたからです。そして、学びに繋がっているのです。そのところを、もう一度、自分に問い合わせていくください。本当に自分が生まれ変わりたいならば、真剣に自分を見つめていくことができるはずだと思います。

異語。

*****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中を覗くことを、私はしておません。表面だけをなぞった反省と瞑想です。母親に使つた心も、自分で見ているつもりですが、なかなかお母さん、ありがとうございます。

えるほど、深くは見ておりません。肉の母に対する思い、色々出できます。もちろん、その中で、お母さんありがとうという思いも出でてきます。だけど、私は、心の底の、底の、底のほうから、生まれてきてよかつた、お母さん、ありがとう、そんな自分とまだ出会っておりません。すべては、他力のエネルギーに自分を任せってきたからですね。他力のエネルギーの部厚さを感じているものの、そのすごさを、まだまだ自分で掘り下げていないことを感じます。

田池留吉を見ることができません。田池留吉は、真っ直ぐ私を見てくれています。だけど、私は、田池留吉を見ることができない。これが私の現状です。

こうやって語れることを、今、ふつと、嬉しいなあと思います。こんなにしてまで、私は、私を語りたかったんだ、そんな私を、私が押さえ込んできた、中に、深く、押し込めてきた、今、私は、それを感じ、少し、自分にすまないという思いを感じます。

田池留吉、自分で心を見ていく以外にないことを、今、確認しております。

あなたの意識です 第1巻

2010年8月30日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2010 Printed in Japan